

平成30年度

足立区の学校保健統計書

令和元年9月

足立区教育委員会

目 次

1 児童生徒の発育状態	
(1) 身体測定（身長・体重）の平均値	1
(2) 肥満度集計	3
2 貧血・小児生活習慣病予防健診	
(1) 小児生活習慣病予防健診	7
(2) 貧血検査	13
巻末【資料1】貧血・小児生活習慣病予防健診 判定基準	38
3 定期健康診断疾病異常調査	
(1) 定期健康診断の受診状況	14
(2) 四肢異常	14
(3) 視力検査	15
(4) 聴力検査	16
(5) アレルギー性疾患	17
(6) 結核検診	21
(7) 心臓疾患検診	22
(8) 尿検査（腎臓検診・糖尿病検診）	23
(9) 歯科健診	25
巻末【資料2】定期健康診断疾病異常調査の概要	39
【資料3】定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計	42
4 脊柱側弯症検診	
脊柱側弯症検診結果	30
5 就学時健康診断	
就学時健康診断結果	31
6 児童生徒の感染症り患状況	
(1) 調査の概要	32
(2) 月別患者数	32
(3) 過去3年間の主な感染症り患状況	33
7 学校管理下における災害統計	
(1) 災害発生状況	34
(2) 災害共済掛金および給付状況	37

平成30年度 学校保健統計報告書概要

1 児童生徒の発育状態「小・中ともに肥満傾向児が多い」

- (1) 肥満傾向（肥満度20%以上）の割合は、小学1年生女子、小学2年生男子を除き、男女ともに全国・東京都の割合より高かった。【P3～P6】
- (2) 痩身傾向（肥満度-20%以下）の割合は、男女とも全国・東京都の割合より概ね低かった。【P3～P5】

2 貧血・小児生活習慣病予防健診（中2）「約4人に1人が有所見」

- (1) 総合判定結果は、男子の約6人に1人、女子の3人に1人が有所見者だった。男子は減少したが、女子は3年連続で増加した。【P7】
- (2) 血圧が「やや高め」以上の割合は、男女とも4人に1人であり、前年度より割合が減少した。【P10】
- (3) 血清脂質検査では、女子の約5人に1人が有所見者だった。前年度と比較すると男子は減少したが、女子は増加した。【P11】
- (4) ヘモグロビンA1c検査では、5.6%以上の割合が約7人に1人に増加した。【P12】
- (5) 貧血検査では、有所見者が女子は約17人に1人と増加したが、男子は過去5年間で一番低かった。【P13】

3 むし歯・歯肉「むし歯の被患率は、小学生は年々減少傾向にある」

- (1) むし歯のある割合は、小学5年生女子、中学生を除き東京都平均を上回っていたが、小学生は男女ともに年々減少している。また、中学生は横ばいだが、過去5年間で被患率が一番低かった。【P25・P26】
- (2) むし歯の未処置者の割合は、男女とも小学生では東京都平均を上回っていたが、中学生では東京都平均を下回っていた。【P25】
- (3) 歯肉に所見のある児童生徒の割合は、男女ともに東京都平均を上回っていた。特に小学生は東京都平均を大幅に上回った学年が多かった。【P27】

4 視力・聴力検査「裸眼視力1.0未満の割合は女子に多い」

- (1) 男女とも、学年が上がるにつれ、裸眼視力0.3未満の割合が増えていた。
【P15】
- (2) すべての学年において、男子よりも女子のほうが、裸眼視力1.0未満の割合が多かった。【P15】
- (3) 聴力検査による難聴者の割合は、全体で約118人に1人に減少した。
【P16】

5 アレルギー性疾患「アレルギー性鼻疾患が一番多く8人に1人」

- (1) アレルギー性眼疾患・鼻疾患・皮膚疾患被患率は、おおむね東京都平均より少ないが、気管支喘息は、小学生で東京都平均を上回る学年が多かった。
【P17～P20】
- (2) アレルギー性眼疾患・鼻疾患、気管支喘息は、女子よりも男子の被患率が高かった。アレルギー性皮膚疾患は、小学3・4年生以外は男子の被患率が高かった。
【P17～P20】

6 感染症のり患者数「インフルエンザは小・中ともに減少」

- (1) インフルエンザは12月から2月にかけてり患者数が多い。前年度と比較するとり患者は7割弱に減少した。【P32・33】
- (2) り患者数は、溶連菌感染症は増加、流行性耳下腺炎は減少した。【P33】

7 学校管理下でのけが等の災害発生件数は「100人に3人程度」

- (1) 学校でのけがなどの災害発生件数および発生率は、小学生・中学生とも減少した。【P34】
- (2) 小学校では休憩中の災害、中学校では課外指導・体育の授業中の災害が多かった。【P35】

1 児童生徒の発育状態

(1) 身体測定（身長・体重）の平均値

東京都および全国の平均値と比較すると、身長・体重ともに大差はみられないが、体重は小学1年生女子、2年生男子を除き、すべての学年で男女ともに全国・東京都を上回っていた。

表1 全国・東京都との比較

	区分		身長 (cm)			体重 (kg)		
	年齢	性別	足立区	東京都	全国	足立区	東京都	全国
小学 生	小1	男子	116.8	116.7	116.5	21.7	21.3	21.4
		女子	115.7	115.9	115.6	20.6	20.9	20.9
	小2	男子	122.8	123.0	122.5	24.4	24.6	24.1
		女子	121.8	121.9	121.5	23.8	23.6	23.5
	小3	男子	128.7	128.3	128.1	28.0	27.4	27.2
		女子	127.4	127.7	127.3	26.8	26.2	26.4
	小4	男子	134.1	134.4	133.7	31.4	30.6	30.7
		女子	133.7	133.8	133.4	30.6	30.1	30.0
	小5	男子	139.3	139.0	138.8	35.1	33.9	34.1
		女子	140.4	140.4	140.1	34.9	34.3	34.1
	小6	男子	145.7	145.5	145.2	39.9	38.4	38.4
		女子	147.1	147.7	146.8	39.9	39.4	39.1
中学 生	中1	男子	153.3	153.0	152.7	44.6	43.8	44.0
		女子	152.5	152.5	151.9	44.6	43.7	43.7
	中2	男子	160.6	160.5	159.8	50.5	48.9	48.8
		女子	155.2	155.5	154.9	48.1	47.3	47.2
	中3	男子	165.9	166.0	165.3	55.6	54.2	54.0
		女子	156.8	157.5	156.6	50.7	49.4	49.9

図1 全国・東京都との比較

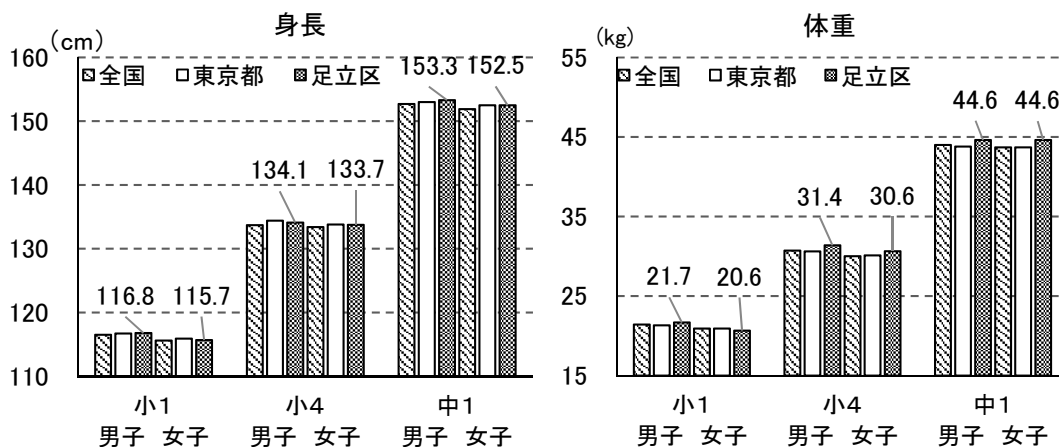


表2 年次推移 【身長の平均値】

単位 (cm)

	男子						女子					
	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	H30年度	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	H30年度
小1	117.0	116.9	116.9	116.8	116.8	116.8	116.2	115.9	115.9	115.8	115.4	115.7
小3	128.5	128.3	128.4	128.6	128.5	128.7	125.0	127.6	127.7	127.4	127.6	127.4
小5	139.4	139.5	139.2	139.2	139.2	139.3	139.3	140.3	140.1	140.5	140.5	140.4
中1	152.6	153.2	152.9	152.7	153.4	153.3	152.3	152.4	152.5	152.0	152.2	152.5
中3	165.7	165.6	165.3	165.5	165.8	165.9	157.1	156.9	156.7	156.5	156.8	156.8

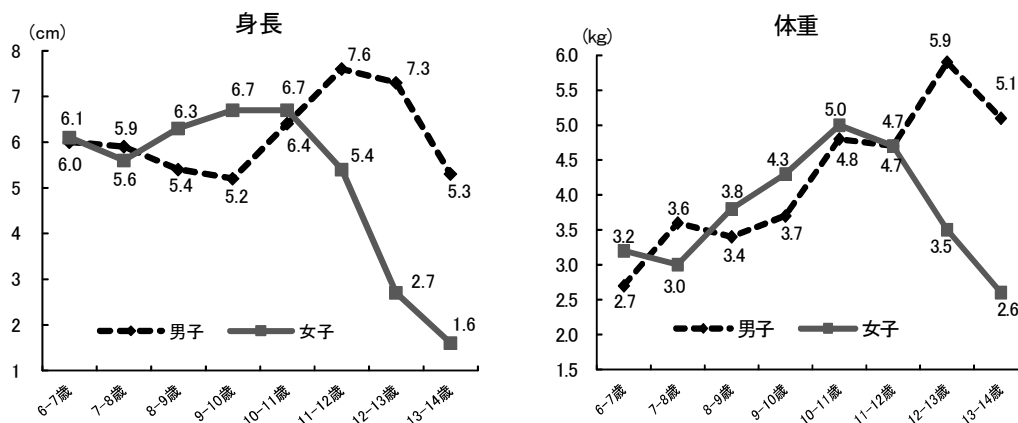
表3 年次推移 【体重の平均値】

単位 (kg)

	男子						女子					
	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	H30年度	H8年度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	H30年度
小1	22.0	21.9	22.0	21.7	21.8	21.7	21.6	21.4	21.2	21.0	20.9	20.6
小3	28.0	28.1	27.9	27.6	27.5	28.0	28.5	27.2	27.0	26.7	26.9	26.8
小5	35.6	36.0	35.8	34.4	34.6	35.1	36.4	35.6	34.9	34.5	34.7	34.9
中1	45.5	46.3	45.9	45.0	45.2	44.6	45.8	45.6	45.3	44.1	44.9	44.6
中3	56.2	57.5	55.9	55.7	54.6	55.6	51.6	51.4	51.0	50.2	50.6	50.7

平成8年度から5年ごとの数値および最新の数値である。身長・体重ともに、ほぼ変わっていない。

図2 年齢間の差（1年間の身長・体重の伸び）



身長が最も伸びた時期は、男子が11～12歳、女子が9～11歳であった。体重が最も増えた時期は、男子が12～13歳、女子が10～11歳であった。

身長・体重ともに、女子の方が成長のピークが早く、性別による違いがある。

(2) 肥満度集計

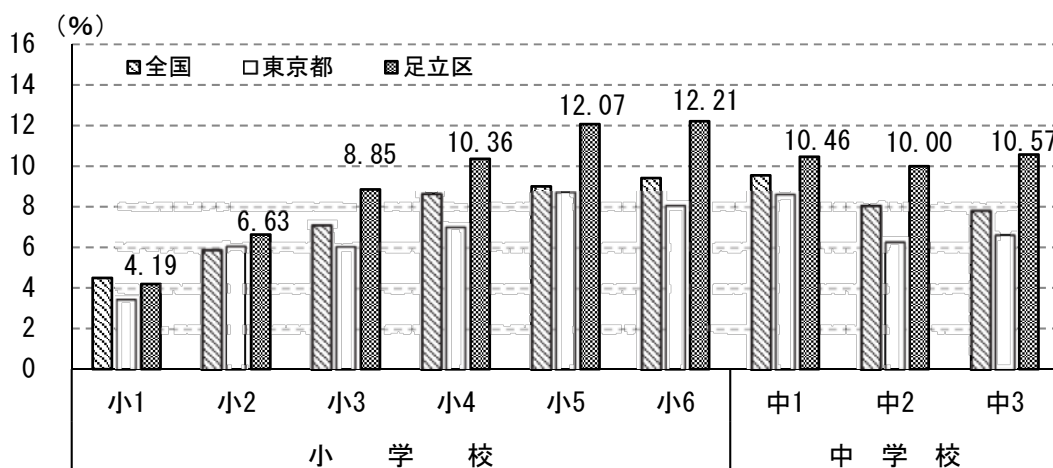
肥満度による肥満傾向の割合は、小学1年生女子、小学2年生男子を除き、すべての学年で男女ともに全国・東京都を上回っていた。男子は小学5年生、女子は小学6年生がピークであるが、以降は全国・東京都が減少傾向であるのに対し、横ばいであった。痩身傾向の割合は、男女とも全国・東京都平均よりも下回っている学年が多かった。

表4 肥満度 【男女合計】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学校合計(人)	中1	中2	中3	中学校合計(人)	
	5,227	5,161	5,288	5,366	5,287	5,258	31,587	4,179	4,418	4,447	13,044	
肥満傾向	再)20以上合計	219	342	468	556	638	642	2,865	437	442	470	1,349
		4.19	6.63	8.85	10.36	12.07	12.21	9.07	10.46	10.00	10.57	10.34
	50以上	14	23	49	46	51	87	270	61	69	72	202
		0.27	0.45	0.93	0.86	0.96	1.65	0.85	1.46	1.56	1.62	1.55
	30~49	73	132	179	219	259	265	1,127	161	154	171	486
1.40		2.56	3.39	4.08	4.90	5.04	3.57	3.85	3.49	3.85	3.73	
20~29	132	187	240	291	328	290	1,468	215	219	227	661	
	2.53	3.62	4.54	5.42	6.20	5.52	4.65	5.14	4.96	5.10	5.07	
普通	-19~19	4,990	4,794	4,782	4,741	4,548	4,483	28,338	3,587	3,867	3,875	11,329
		95.47	92.89	90.43	88.35	86.02	85.26	89.71	85.83	87.53	87.14	86.85
痩身傾向	-29~-20	18	25	38	69	101	130	381	150	107	101	358
		0.34	0.48	0.72	1.29	1.91	2.47	1.21	3.59	2.42	2.27	2.74
	-49~-30	0	0	0	0	0	3	3	5	2	1	8
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.01	0.12	0.05	0.02	0.06

図3 肥満傾向児(20%以上)出現率 【男女合計】



肥満度 (%) = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100

肥満傾向児とは、肥満度が20%以上の者。

痩身傾向児とは、肥満度が-20%以下の者

普通児とは、肥満度が-20%超~20%未満の者

全国・東京都：学校統計調査（無作為抽出）

足立区：身長・体重・肥満度報告より作成

表5 肥満度 【男子】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1 2,637	小2 2,610	小3 2,735	小4 2,771	小5 2,765	小6 2,723	小学校 合計(人) 16,241	中1 2,144	中2 2,196	中3 2,245	中学校 合計(人) 6,585	
肥満傾向	再)20以上 合計	129	184	267	313	377	367	1,637	247	244	281	772
		4.89	7.05	9.76	11.30	13.63	13.48	10.08	11.52	11.11	12.52	11.72
	50以上	11	15	38	34	31	56	185	45	46	49	140
		0.42	0.57	1.39	1.23	1.12	2.06	1.14	2.10	2.09	2.18	2.13
	30~49	40	83	103	123	156	166	671	85	81	108	274
		1.52	3.18	3.77	4.44	5.64	6.10	4.13	3.96	3.69	4.81	4.16
20~29	78	86	126	156	190	145	781	117	117	124	358	
	2.96	3.30	4.61	5.63	6.87	5.33	4.81	5.46	5.33	5.52	5.44	
普通	2,496	2,414	2,449	2,415	2,337	2,280	14,391	1,827	1,915	1,914	5,656	
	94.65	92.49	89.54	87.15	84.52	83.73	88.61	85.21	87.20	85.26	85.89	
瘦身傾向	-29~-20	12	12	19	43	51	73	210	69	37	49	155
		0.46	0.46	0.69	1.55	1.84	2.68	1.29	3.22	1.68	2.18	2.35
	-49~-30	0	0	0	0	0	3	3	1	0	1	2
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.02	0.05	0.00	0.04	0.03

図4 肥満傾向児(20%以上)出現率 【男子】

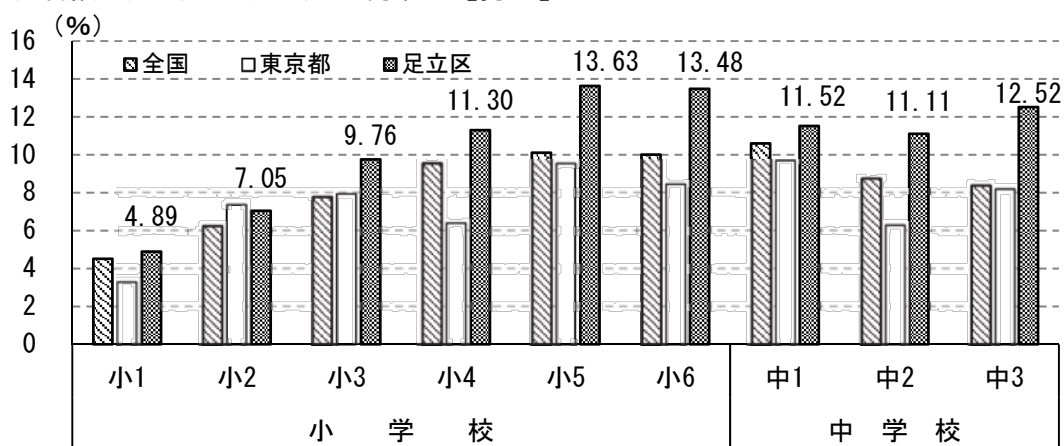


図5 瘦身傾向児(-20%以下)出現率 【男子】

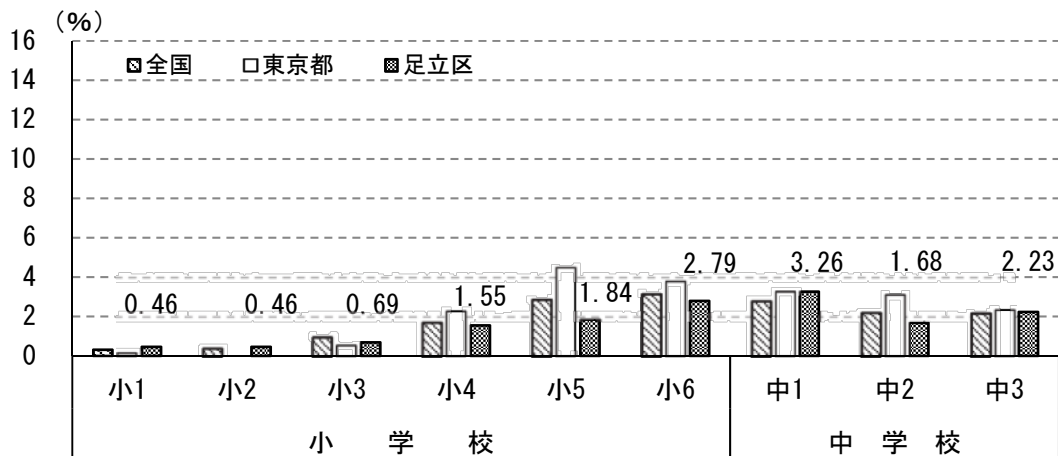


表6 肥満度 【女子】

単位 上段(人) / 下段(%)

肥満度 (%)	小1 2,590	小2 2,551	小3 2,553	小4 2,595	小5 2,522	小6 2,535	小学校 合計(人) 15,346	中1 2,035	中2 2,222	中3 2,202	中学校 合計(人) 6,459	
肥満傾向	再)20以上 合計	90	158	201	243	261	275	1,228	190	198	189	577
		3.47	6.19	7.87	9.36	10.35	10.85	8.00	9.34	8.91	8.58	8.93
	50以上	3	8	11	12	20	31	85	16	23	23	62
		0.12	0.31	0.43	0.46	0.79	1.22	0.55	0.79	1.04	1.04	0.96
	30~49	33	49	76	96	103	99	456	76	73	63	212
		1.27	1.92	2.98	3.70	4.08	3.91	2.97	3.73	3.29	2.86	3.28
20~29	54	101	114	135	138	145	687	98	102	103	303	
	2.08	3.96	4.47	5.20	5.47	5.72	4.48	4.82	4.59	4.68	4.69	
普通	-19~19	2,494	2,380	2,333	2,326	2,211	2,203	13,947	1,760	1,952	1,961	5,673
		96.29	93.30	91.38	89.63	87.67	86.90	90.88	86.49	87.85	89.06	87.83
瘦身傾向	-29~-20	6	13	19	26	50	57	171	81	70	52	203
		0.23	0.51	0.74	1.00	1.98	2.25	1.11	3.98	3.15	2.36	3.14
	-49~-30	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	6
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.09	0.00	0.09

図6 肥満傾向児(20%以上)出現率 【女子】

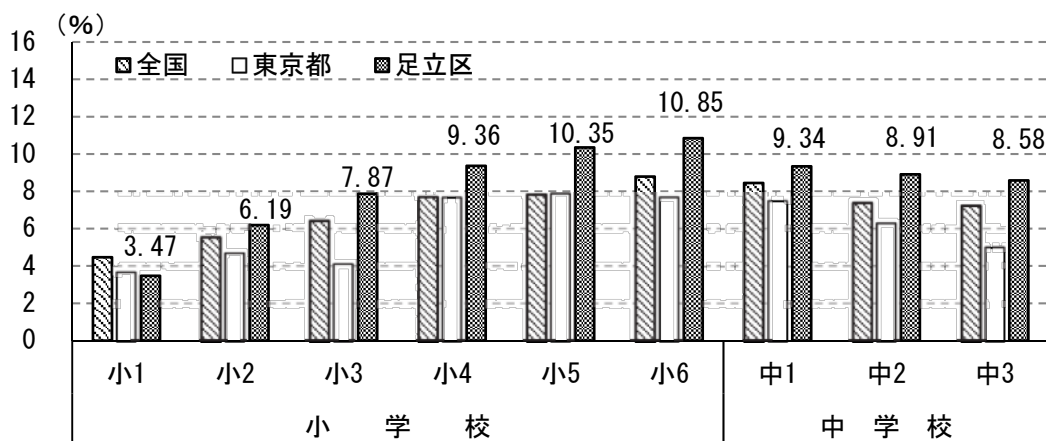


図7 瘦身傾向児(-20%以下)出現率 【女子】

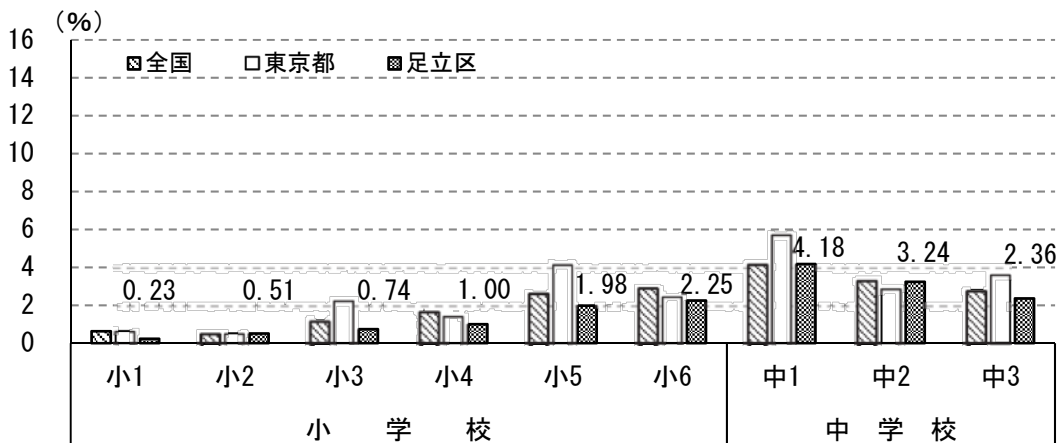
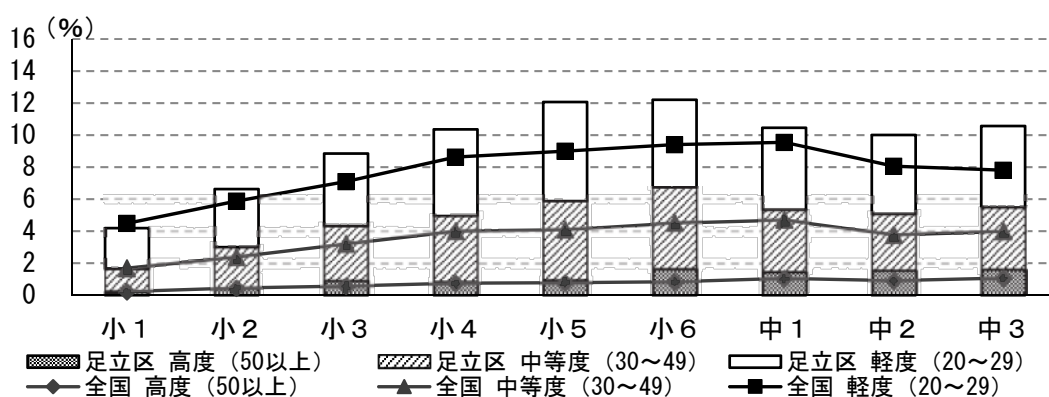


表7・図8 肥満度 【男女合計】 重度・中等度・軽度内訳 全国比較

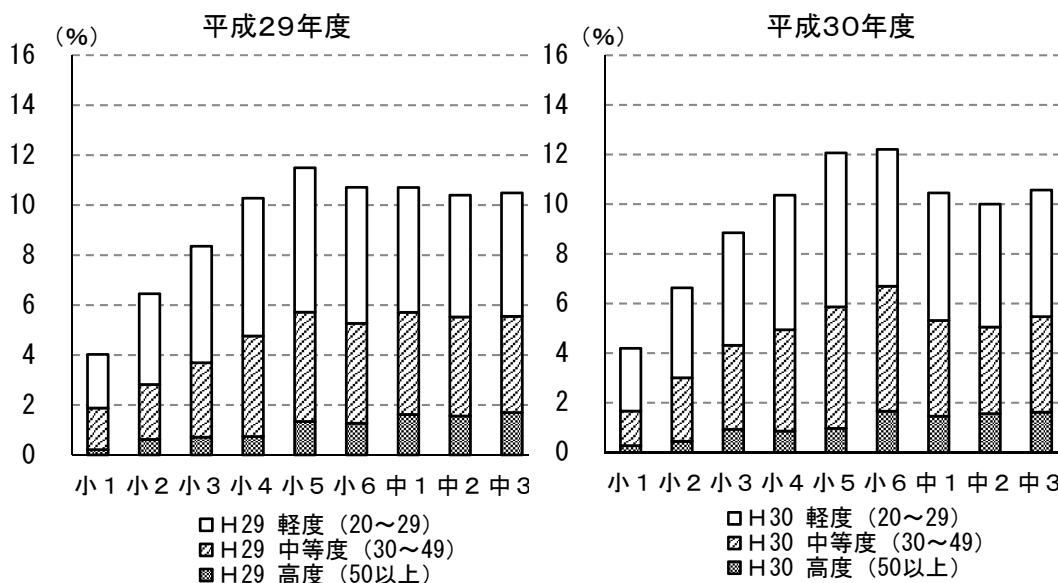
単位 (%)

	高度肥満(50以上)		中等度肥満(30~49)		軽度肥満(20~29)	
	足立区	全国	足立区	全国	足立区	全国
小1	0.27	0.23	1.40	1.46	2.53	2.80
小2	0.45	0.45	2.56	1.94	3.62	3.49
小3	0.93	0.57	3.39	2.63	4.54	3.90
小4	0.86	0.75	4.08	3.24	5.42	4.64
小5	0.96	0.78	4.90	3.30	6.20	4.92
小6	1.65	0.84	5.04	3.66	5.52	4.91
中1	1.46	1.05	3.85	3.64	5.14	4.86
中2	1.56	0.91	3.49	2.85	4.96	4.30
中3	1.62	1.07	3.85	2.91	5.10	3.83



肥満度20%以上の内訳について全国と比較すると、小学1年生の軽度・中等度肥満、小学2年生の高度肥満以外は、すべての学年と肥満度の分類で全国を上回っていた。軽度肥満は小学5年生と中学3年生、中等度肥満は小学5・6年生で、全国の割合と比べて1%以上多かった。

図9 肥満度 【男女合計】 平成29年度との比較



前年度との比較では、小学生は増加、中学生はほぼ横ばいであった。

2 貧血・小児生活習慣病予防健診

(1) 小児生活習慣病予防健診

ア 総合判定

検査内容：肥満度、血圧、血清脂質〔総コレステロール、HDL・コレステロール、LDL・コレステロール〕
ヘモグロビンA1c（H28追加）、糖尿病歴（学校申告）

対象者：①中学2年生

②前年度の小児生活習慣病予防健診で要医学的管理・要経過観察・

ヘモグロビンA1c 5.6%以上（H29追加）と判定された中学3年生

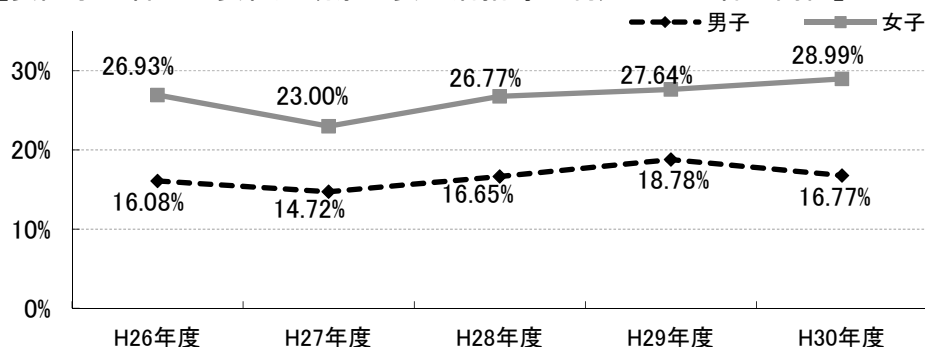
判定基準：末巻【資料1】のとおり

表8 小児生活習慣病予防健診 総合判定結果集計 単位（人）

		受診者数	要医学的管理	要経過観察	要生活指導	管理不要	正常
全受診者	男子	2,207	85 3.85%	155 7.02%	210 9.52%	544 24.65%	1,213 54.96%
	女子	2,313	92 3.98%	228 9.86%	437 18.89%	502 21.70%	1,054 45.57%
	計	4,520	177 3.92%	383 8.47%	647 14.31%	1,046 23.14%	2,267 50.15%
中学2年	男子	1,974	48 2.43%	100 5.07%	183 9.27%	501 25.38%	1,142 57.85%
	女子	2,070	56 2.71%	163 7.87%	381 18.41%	461 22.27%	1,009 48.74%
	計	4,044	104 2.57%	263 6.50%	564 13.95%	962 23.79%	2,151 53.19%
中学3年	男子	233	37 15.88%	55 23.61%	27 11.59%	43 18.45%	71 30.47%
	女子	243	36 14.81%	65 26.75%	56 23.05%	41 16.87%	45 18.52%
	計	476	73 15.34%	120 25.21%	83 17.44%	84 17.65%	116 24.37%

図10 中学2年生の総合判定結果の年次推移

【要医学的管理・要経過観察・要生活指導と判定された者の割合】



総合判定の有所見者（要医学的管理・要経過観察・要生活指導と判定された者）は、男子は約6人に1人に減少したが、女子は約3人に1人に増加した。

(参考) 健診の変遷

平成4年度	対象は中学1年生と前年度「Ⅱ要経過観察」判定の中学2年生3校でモデル実施としてスタート
平成8年度	指定校を5校に拡大
平成14年度	対象を中学2年生と前年度「Ⅱ要経過観察」判定の中学3年生へ変更 全中学校に拡大
平成28年度	前年度「Ⅰ要医学的管理」判定の中学3年生を対象に追加
平成29年度	前年度「ヘモグロビンA1c 5.6%以上」の中学3年生を対象に追加

イ 各検査項目結果

(ア) 肥満度(中学2年生の全体の傾向については、前章P3～P6を参照のこと)

表9 判定結果集計

単位(人)

肥満度指数(%)		痩せ型	標準型	肥満型		
		-20以下	-19～19	(軽度) 20～29	(中等度) 30～49	(高度) 50以上
全 受 診 者	男子 2,207人	60 2.72%	1,834 83.10%	116 5.26%	129 5.85%	68 3.08%
	女子 2,313人	95 4.11%	1,986 85.86%	115 4.97%	82 3.55%	35 1.51%
	計 4,520人	155 3.43%	3,820 84.51%	231 5.11%	211 4.67%	103 2.28%
中 2	男子 1,974人	57 2.89%	1,706 86.42%	93 4.71%	80 4.05%	38 1.93%
	女子 2,070人	86 4.15%	1,819 87.87%	93 4.49%	52 2.51%	20 0.97%
	計 4,044人	143 3.54%	3,525 87.17%	186 4.60%	132 3.26%	58 1.43%
中 3	男子 233人	3 1.29%	128 54.94%	23 9.87%	49 21.03%	30 12.88%
	女子 243人	9 3.70%	167 68.72%	22 9.05%	30 12.35%	15 6.17%
	計 476人	12 2.52%	295 61.97%	45 9.45%	79 16.60%	45 9.45%

図11 中学2年生の肥満度分布

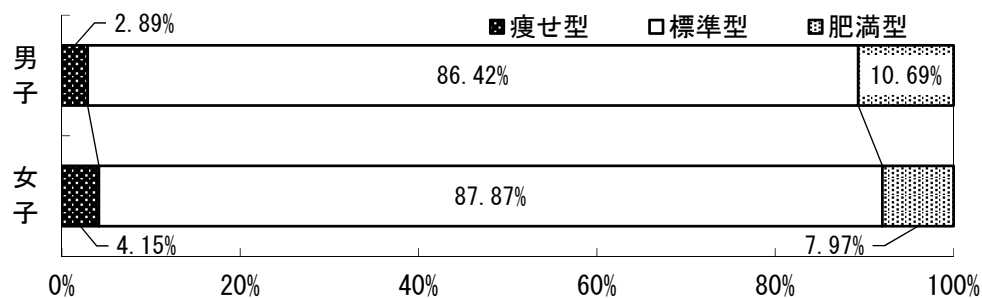
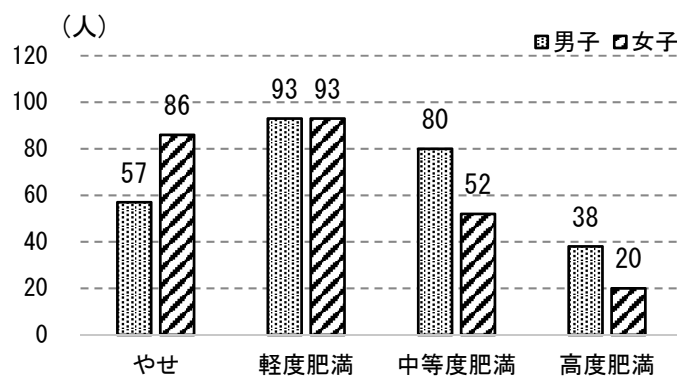
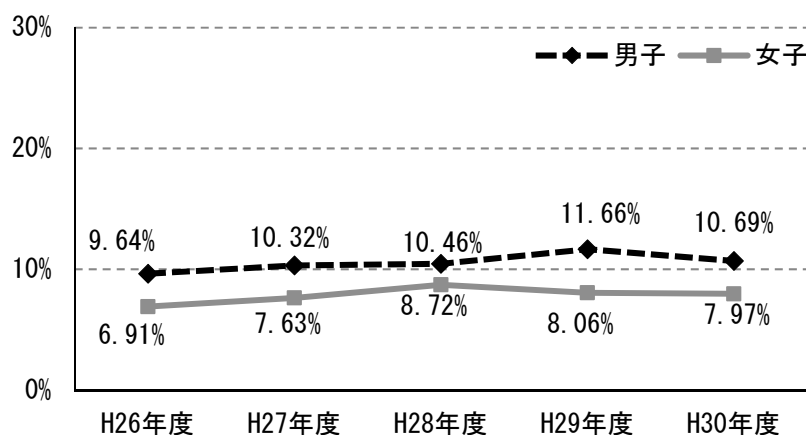


図12 中学2年生のやせ型・肥満型の人数



やせ型は男子より女子に多く、肥満型は男子に多かった。

図 1 3 中学 2 年生の肥満度測定判定結果の年次推移【肥満型と判定された者の割合】



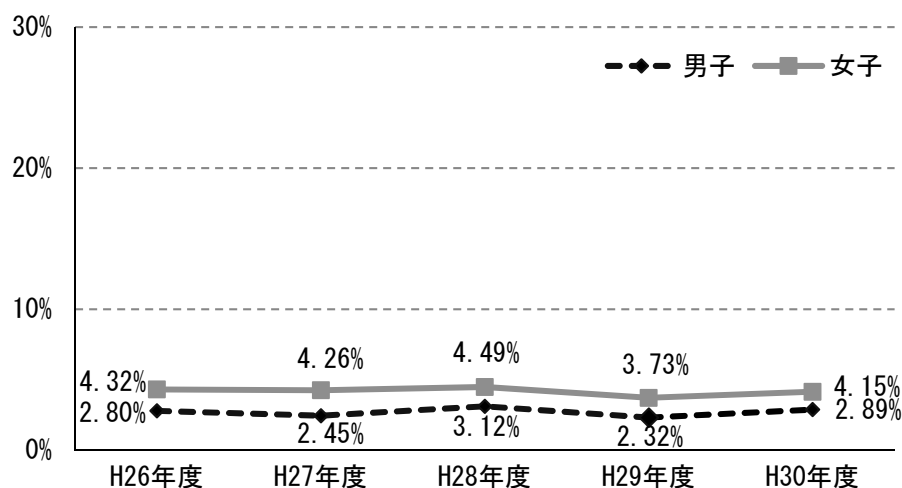
肥満型と判定された者の割合は、男女ともやや減少した。

女子に比べ、男子の割合が高く、男子の約 9 人に 1 人が肥満型であった。

(参考) 肥満傾向児年次推移【全国】 文部科学省学校保健統計報告より 単位 (%)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
男子	8.94	8.37	8.28	8.69	8.73
女子	7.89	7.69	7.46	7.45	7.37

図 1 4 中学 2 年生の肥満度測定判定結果の年次推移【やせ型と判定された者の割合】



やせ型と判定された者の割合は、男女とも大きな変動は見られないが、前年度に比べるとやや増加した。男子に比べ、女子の割合が高かった。

(参考) 痩身傾向児年次推移【全国】 文部科学省学校保健統計報告より 単位 (%)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
男子	1.75	1.80	2.04	2.26	2.21
女子	3.52	3.49	3.47	3.69	3.32

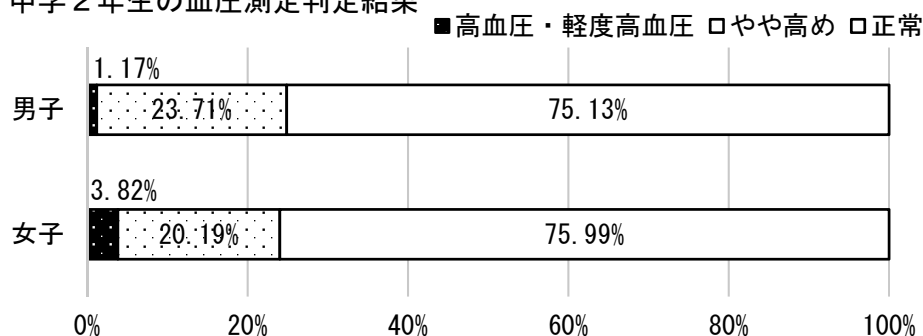
(イ) 血圧測定

表 10 判定結果集計

単位 (人)

		検査人数	高血圧	軽度高血圧	やや高め	正常	血圧判定基準値	
全受診者	男子	2,207	8 0.36%	29 1.31%	561 25.42%	1,609 72.90%	高血圧	150/95mmHg以上
	女子	2,313	15 0.65%	91 3.93%	482 20.84%	1,725 74.58%	軽度高血圧	140/85mmHg以上
	計	4,520	23 0.51%	120 2.65%	1,043 23.08%	3,334 73.76%	やや高め	120/70mmHg以上
中学2年	男子	1,974	6 0.30%	17 0.86%	468 23.71%	1,483 75.13%	正常	120/70mmHg未満
	女子	2,070	10 0.48%	69 3.33%	418 20.19%	1,573 75.99%	高血圧	145/90mmHg以上
	計	4,044	16 0.40%	86 2.13%	886 21.91%	3,056 75.57%	軽度高血圧	135/80mmHg以上
中学3年	男子	233	2 0.86%	12 5.15%	93 39.91%	126 54.08%	やや高め	120/70mmHg以上
	女子	243	5 2.06%	22 9.05%	64 26.34%	152 62.55%	正常	120/70mmHg未満
	計	476	7 1.47%	34 7.14%	157 32.98%	278 58.40%		

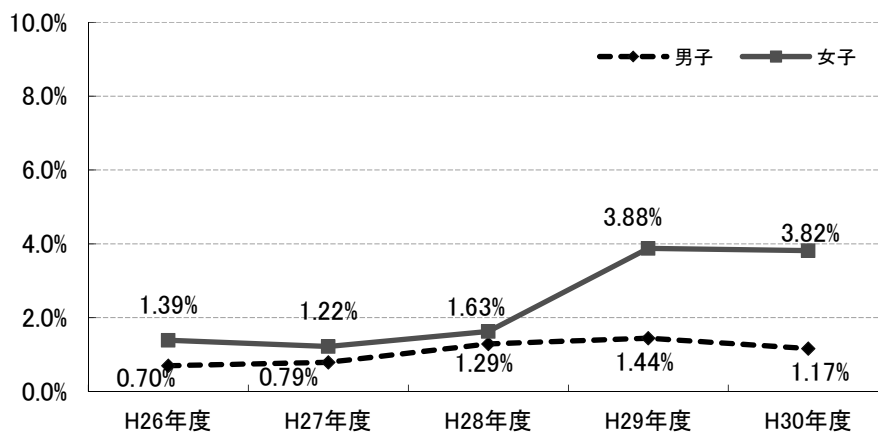
図 15 中学2年生の血圧測定判定結果



血圧がやや高め以上の割合は、男子24.9%、女子24.0%（男女とも約4人に1人）であり、男女とも前年度よりも割合が減少した。

図 16 中学2年生の血圧判定結果の年次推移

【高血圧・軽度高血圧と判定された者の割合】



軽度高血圧以上の割合では、男子はやや減少したが、女子は前年度に続き割合が高かった。

(ウ) 血清脂質検査

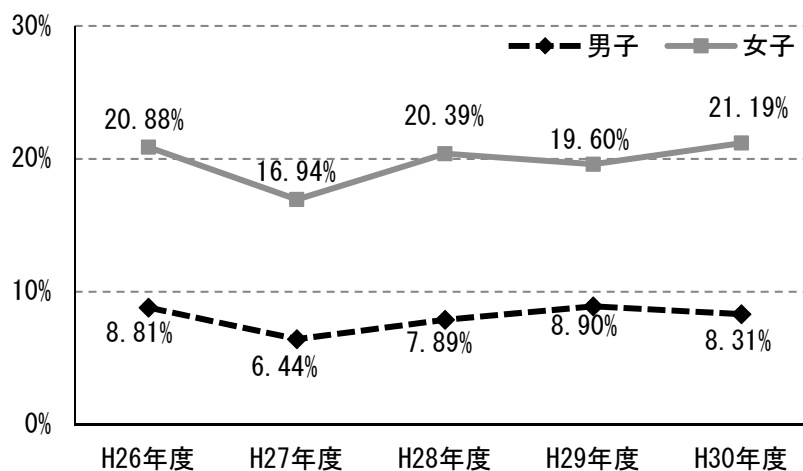
表 1 1 判定結果集計

単位 (人)

		検査人数	かなりの異常	異常	異常傾向	やや異常傾向	正常
全 受 診 者	男子	2,206	16 0.73%	20 0.91%	178 8.07%	261 11.83%	1,731 78.47%
	女子	2,310	38 1.65%	84 3.64%	425 18.40%	315 13.64%	1,448 62.68%
	計	4,516	54 1.20%	104 2.30%	603 13.35%	576 12.75%	3,179 70.39%
中 2	男子	1,974	10 0.51%	14 0.71%	140 7.09%	232 11.75%	1,578 79.94%
	女子	2,067	24 1.16%	62 3.00%	352 17.03%	286 13.84%	1,343 64.97%
	計	4,041	34 0.84%	76 1.88%	492 12.18%	518 12.82%	2,921 72.28%
中 3	男子	232	6 2.59%	6 2.59%	38 16.38%	29 12.50%	153 65.95%
	女子	243	14 5.76%	22 9.05%	73 30.04%	29 11.93%	105 43.21%
	計	475	20 4.21%	28 5.89%	111 23.37%	58 12.21%	258 54.32%

図 1 7 中学 2 年生の血清脂質検査判定結果の年次推移

【かなりの異常・異常・異常傾向と判定された者の割合】



血清脂質の有所見者（かなりの異常・異常・異常傾向と判定された者）のうち、女子は男子に比べて2倍以上高く、約5人に1人であった。前年度と割合を比較すると、男子はやや減少したが、女子は1%以上増加した。

(エ) ヘモグロビンA1c検査（平成28年度からの追加項目）

ヘモグロビンA1c検査は、過去1～2ヶ月間の平均的血糖値を反映する検査である。

表12 判定結果集計

単位（人）

		検査人数	a 高値	b 高値	d 正常高値	n 正常範囲
			6.5%以上	6.0～6.4%	5.6～5.9%	5.5%以下
全受診者	男子	2,206	4 0.18%	4 0.18%	411 18.63%	1,787 81.01%
	女子	2,309	4 0.17%	7 0.30%	338 14.64%	1,960 84.89%
	計	4,515	8 0.18%	11 0.24%	749 16.59%	3,747 82.99%
中学2年	男子	1,974	1 0.05%	3 0.15%	326 16.51%	1,644 83.28%
	女子	2,066	2 0.10%	7 0.34%	268 12.97%	1,789 86.59%
	計	4,040	3 0.07%	10 0.25%	594 14.70%	3,433 84.98%
中学3年	男子	232	3 1.29%	1 0.43%	85 36.64%	143 61.64%
	女子	243	2 0.82%	0 0.00%	70 28.81%	171 70.37%
	計	475	5 1.05%	1 0.21%	155 32.63%	314 66.11%

表13 ヘモグロビンA1c検査判定基準

高値	a	6.5%以上	専門医療機関で精密検査をお勧めします。
	b	6.0～6.4%	医療機関（かかりつけ医、学校医）で再検査（空腹時血糖・ヘモグロビンA1c検査）をお勧めします。
正常範囲	d	5.6～5.9%	正常高値です（2年生は来年度、学校で再検査）。
	n	5.5%以下	正常範囲内です。

図18 中学2年生のヘモグロビンA1c検査結果

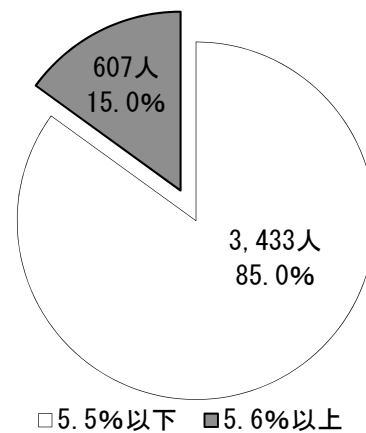


表14 中学2年生 小児生活習慣病有所見者*とヘモグロビンA1c検査結果との関係

小児生活習慣病予防健診有所見者*	931人	23.02%
ヘモグロビンA1c 正常高値以上（5.6%以上）	607人	15.02%
小児生活習慣病予防健診有所見者*とヘモグロビンA1c 5.6%以上の重複者	176人	4.35%

*生活習慣病予防健診有所見者…Ⅰ 要医学的管理、Ⅱ 要経過観察、Ⅲ 要生活指導 判定の者

ヘモグロビンA1c検査で正常高値以上の割合は、約7人に1人（表14参照）であり、前年度より約9%増加した。正常高値は女子に比べ男子の割合が高かった。

(2) 貧血検査

思春期、成長期における貧血の予防および早期発見を目的として実施している。

検査内容：白血球数(WBC)、赤血球数(RBC)、血色素量(Hgb)、赤血球容積比(Hct)等
 対象者：①中学2年生

②前年度の小児生活習慣病予防健診で要医学的管理・要経過観察・

ヘモグロビンA1c 5.6%以上(H29追加)と判定された中学3年生

判定基準：末巻【資料1】のとおり

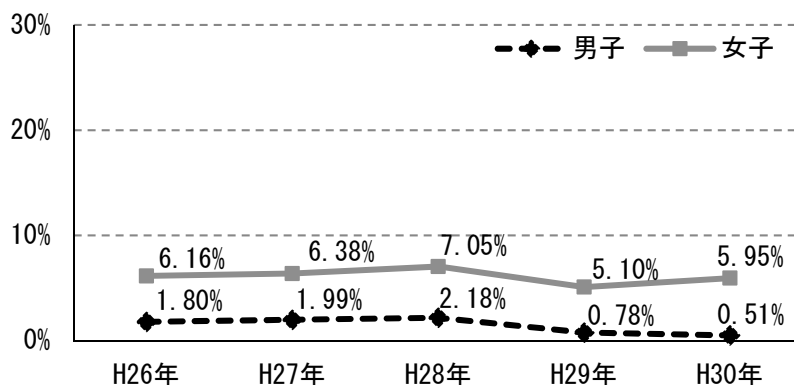
表15 貧血検査 判定結果集計 単位(人)

		受診者数	要受診	要再検	正常
全受診者	男子	2,203	12 0.54%	26 1.18%	2,165 98.28%
	女子	2,309	137 5.93%	14 0.61%	2,158 93.46%
	計	4,512	149 3.30%	40 0.89%	4,323 95.81%
中2	男子	1,971	10 0.51%	21 1.07%	1,940 98.43%
	女子	2,066	123 5.95%	13 0.63%	1,930 93.42%
	計	4,037	133 3.29%	34 0.84%	3,870 95.86%
中3	男子	232	2 0.86%	5 2.16%	225 96.98%
	女子	243	14 5.76%	1 0.41%	228 93.83%
	計	475	16 3.37%	6 1.26%	453 95.37%

※要再検者は血色素量高値または赤血球・平均赤血球容積(MCV)値異常の者

図19 中学2年生の貧血検査判定結果の年次推移

【有所見者※の割合】



※有所見者について

平成28年度までは「要受診・要注意」、平成29年度からは「要受診」を計上
 (平成29年度に基準値変更あり。分類「要注意」が削除されたため)。

貧血検査の有所見者(要受診と判定された者)は、女子が男子に比べ約1.2倍多く、女子は約1.7人に1人であった。割合は、男子が過去5年間で一番低かったが、女子はやや増加した。

3 定期健康診断疾病異常調査

(1) 定期健康診断の受診状況

受診率は、小学生は99.3%、中学生は96.3%であった。

表16 定期健康診断の受診率学年別受診状況

	単位(人)			単位(人)			単位(%)				
	在籍者数	男子	女子	計	受診者数	男子	女子	計	受診率	男子	女子
小1	2,641	2,582	5,223	2,630	2,570	5,200	99.58	99.54	99.56		
小2	2,617	2,556	5,173	2,596	2,539	5,135	99.20	99.33	99.27		
小3	2,739	2,560	5,299	2,726	2,549	5,275	99.53	99.57	99.55		
小4	2,787	2,581	5,368	2,769	2,572	5,341	99.35	99.65	99.50		
小5	2,775	2,544	5,319	2,756	2,510	5,266	99.32	98.66	99.00		
小6	2,740	2,545	5,285	2,699	2,525	5,224	98.50	99.21	98.85		
小学校計	16,299	15,368	31,667	16,176	15,265	31,441	99.25	99.33	99.29		
中1	2,171	2,051	4,222	2,122	2,012	4,134	97.74	98.10	97.92		
中2	2,246	2,277	4,523	2,152	2,184	4,336	95.81	95.92	95.87		
中3	2,331	2,284	4,615	2,217	2,178	4,395	95.11	95.36	95.23		
中学校計	6,748	6,612	13,360	6,491	6,374	12,865	96.19	96.40	96.29		
小中合計	23,047	21,980	45,027	22,667	21,639	44,306	98.35	98.45	98.40		

(2) 四肢異常

表17 四肢異常の割合

男子	単位(%)		女子	単位(%)	
	足立区	東京都		足立区	東京都
小1	0.34	0.20	小1	0.23	0.15
小2	0.19	0.18	小2	0.24	0.12
小3	0.44	0.29	小3	0.20	0.18
小4	0.33	0.30	小4	0.35	0.19
小5	0.33	0.35	小5	0.32	0.23
小6	0.41	0.43	小6	0.40	0.23
中1	0.94	0.58	中1	0.60	0.42
中2	0.70	0.67	中2	0.50	0.46
中3	0.63	0.69	中3	0.41	0.62

四肢異常は、すべての学年で1%以下であり、前年度より割合が減少した学年が多かった。東京都との比較では、小学5・6年生男子、中学3年生男女を除き、東京都平均を上回っていた。

※四肢異常の計上の調査内容について

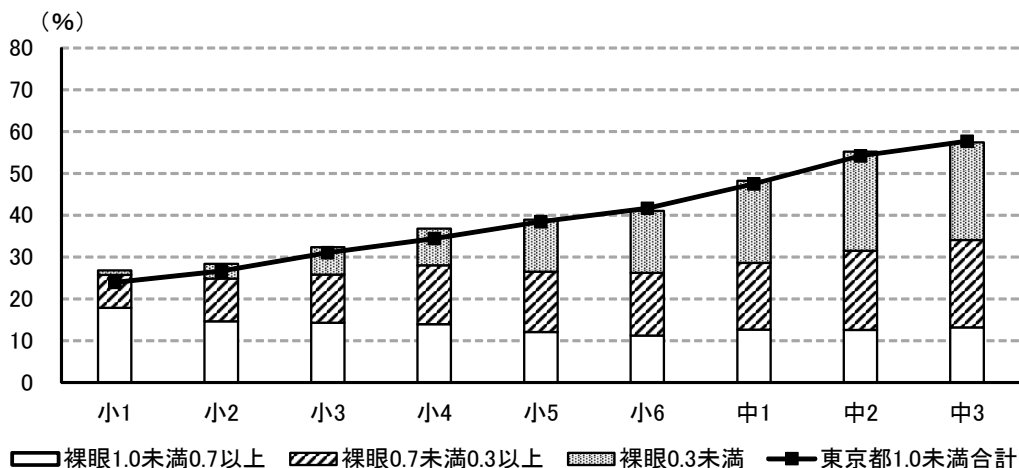
平成28年度は「調査票提出までに専門医により四肢に関して疾病・異常と判断された者」が対象であった。平成29年度からは「学校医が疾病異常と判断した者と、医療機関において治療中、経過観察中の者」と対象が拡大された。

(3) 視力検査 (裸眼視力 1.0 未満の児童生徒の割合)

男女とも、学年が上がるにつれ、裸眼視力 0.3 未満の割合が増えていた。すべての学年において、男子よりも女子の方が裸眼視力 1.0 未満の割合が多かった。

また、小学 6 年生男子、中学 3 年生男子を除き、東京都平均よりも裸眼視力 1.0 未満の割合が多かった。

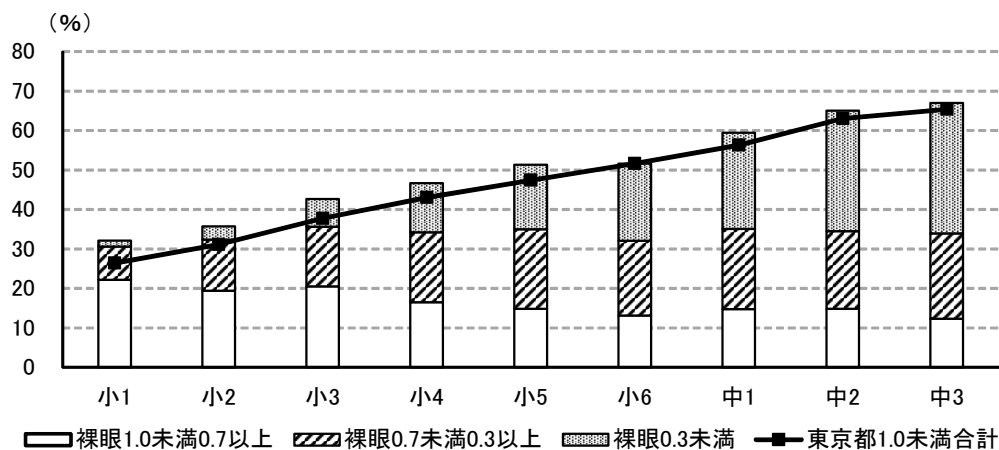
図 20・表 18 裸眼視力 1.0 未満の割合 学年別及び、東京都比較 【男子】



単位(%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	26.81	28.38	32.36	36.85	38.96	41.09	48.30	55.21	57.48
	東京都	23.97	26.69	31.06	34.43	38.50	41.66	47.54	54.19	57.72

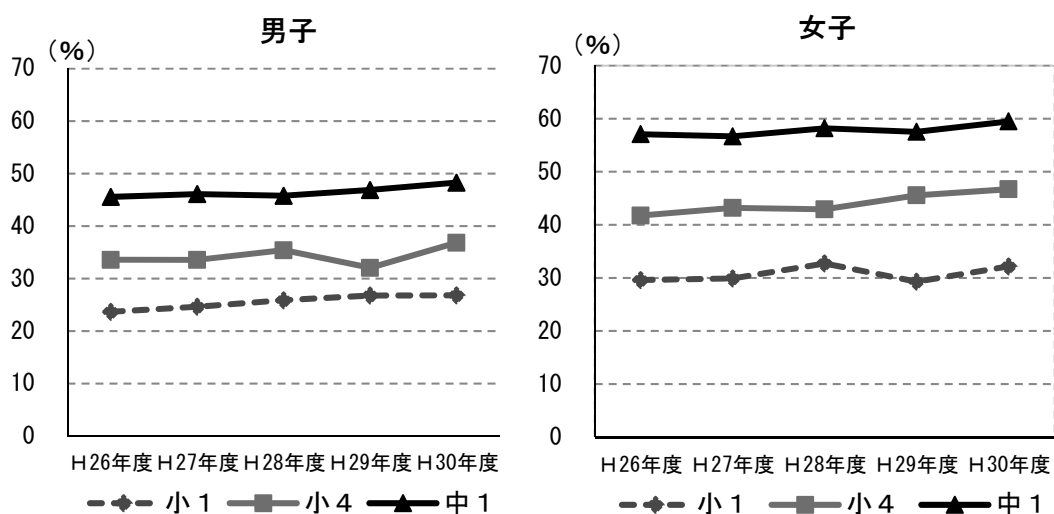
図 21・表 19 裸眼視力 1.0 未満の割合 学年別及び、東京都比較 【女子】



単位(%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	32.15	35.72	42.67	46.71	51.33	51.66	59.49	65.06	67.02
	東京都	26.41	31.16	37.70	43.04	47.43	51.62	56.28	63.06	65.39

図 2 2 ・ 表 2 0 裸眼視力 1.0 未満割合の年次推移



	男 子					女 子				
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小 1	23.67	24.64	25.87	26.78	26.81	29.59	29.89	32.72	29.28	32.15
小 4	33.59	33.58	35.42	32.07	36.85	41.74	43.19	42.92	45.56	46.71
中 1	45.57	46.12	45.79	46.89	48.30	57.08	56.68	58.20	57.53	59.49

(4) 聴力検査

聴力検査による難聴者の割合は、全体で約 1 1 8 人に 1 人程度であり、前年度より減少した。

表 2 1 難聴者※数の年次推移

単位 上段 (人) / 下段 (%)

	男 子					女 子				
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小 1	42 1.54%	19 0.68%	41 1.50%	33 1.26%	28 1.09%	31 1.24%	28 1.09%	54 2.09%	40 1.57%	32 1.25%
小 2	35 1.31%	20 0.73%	19 0.69%	24 0.88%	20 0.79%	17 0.68%	23 0.92%	29 1.13%	28 1.09%	30 1.19%
小 3	19 0.76%	25 0.93%	16 0.58%	25 0.90%	19 0.72%	32 1.32%	25 1.00%	20 0.80%	21 0.82%	29 1.15%
小 5	20 0.78%	14 0.55%	15 0.61%	26 0.96%	11 0.41%	22 0.85%	35 1.34%	21 0.88%	16 0.63%	16 0.63%
中 1	24 0.98%	23 1.02%	16 0.70%	22 0.99%	15 0.70%	21 0.91%	16 0.74%	25 1.12%	20 0.89%	12 0.59%
中 3	27 1.17%	24 1.00%	19 0.79%	13 0.57%	14 0.63%	24 1.05%	24 1.10%	26 1.13%	22 1.00%	21 0.96%

※難聴者とは、オーディオメータを使用して検査した場合、両耳とも 1,000 ヘルツにおいて 30 デシベル、または、4,000 ヘルツにおいて 25 デシベル相当の音が聴取できない者。

※聴力検査は、小学 1～3 年生と 5 年生、中学 1 年生と 3 年生で実施している。

(5) アレルギー性疾患

各疾患については、ここ1年以内にその疾患と判定された者、または医療機関で経過観察中の者を、学校医の判定に加え保健調査や日常の健康観察により把握している。

ア アレルギー性眼疾患

アレルギー性眼疾患の被患率は、小学校では小学4～6年生が高く、中学生で減少した。すべての学年で、女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、すべての学年で東京都平均を下回っていた。

表22・図23 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

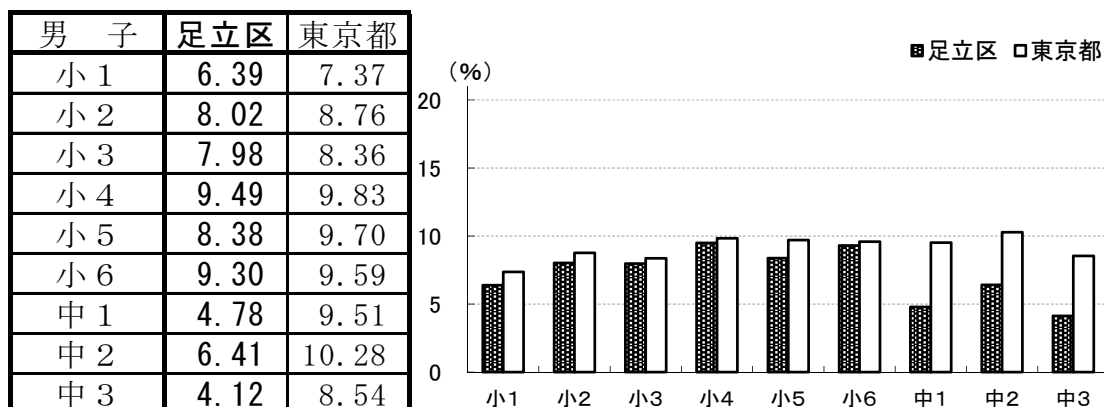


表23・図24 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

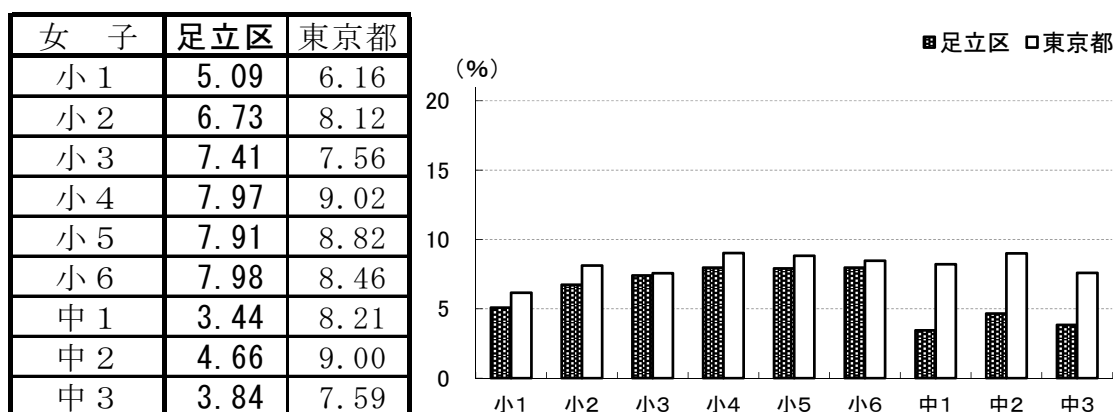


表24 年次推移

単位: 受診数・被患数(人)、被患率(%)

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	30,750	1,738 5.65%	30,995	2,011 6.49%	31,034	2,260 7.28%	31,059	2,381 7.67%	31,201	2,416 7.74%
中学生	13,784	1,008 7.31%	13,660	753 5.51%	13,429	708 5.27%	13,158	632 4.80%	12,766	581 4.55%

小学生の被患率は年々増加しており、過去5年間で一番高かった。中学生の被患率は年々減少しており、過去5年間で一番低かった。

イ アレルギー性鼻疾患

アレルギー性鼻疾患の被患率は、男子では小学4年生、女子では中学2年生が最も高く、すべての学年で女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、すべての学年で東京都平均を下回っていた。

表25・図25 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位(%)

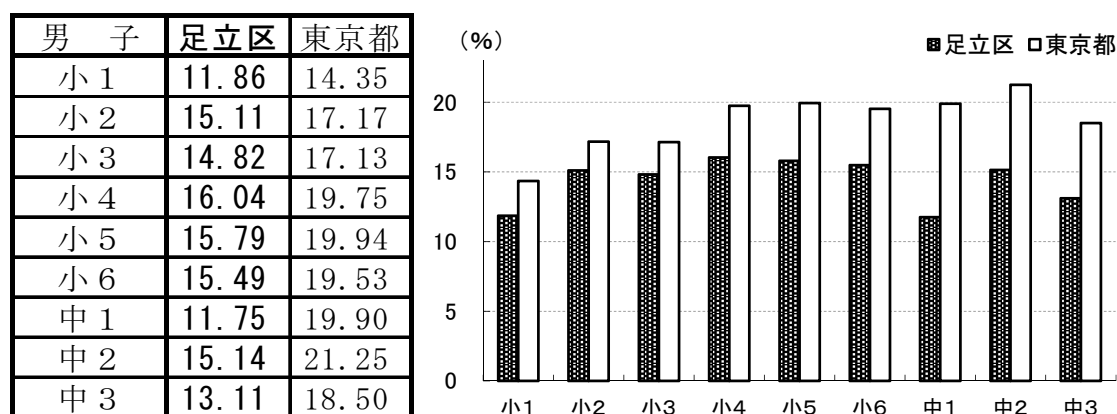


表26・図26 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位(%)

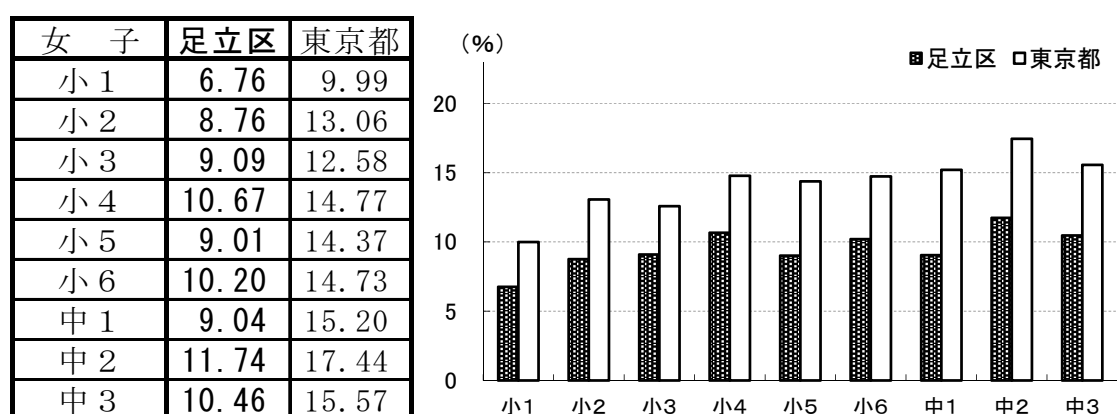


表27 年次推移

単位: 受診数・被患数(人)、被患率(%)

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	30,771	3,225 10.48%	30,978	3,504 11.31%	31,053	3,975 12.80%	30,831	3,968 12.87%	31,316	3,774 12.05%
中学生	13,716	1,883 13.73%	13,687	1,825 13.33%	13,448	1,710 12.72%	13,137	1,463 11.14%	12,782	1,522 11.91%

前年度に比べ、小学生は減少したが、中学生は増加した。

ウ アレルギー性皮膚疾患

アレルギー性皮膚疾患の被患率は、小学3・4年生以外は男子の割合が高かった。東京都との比較では、男女ともすべての学年で、東京都平均を下回っていた。

表28・図27 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位(%)

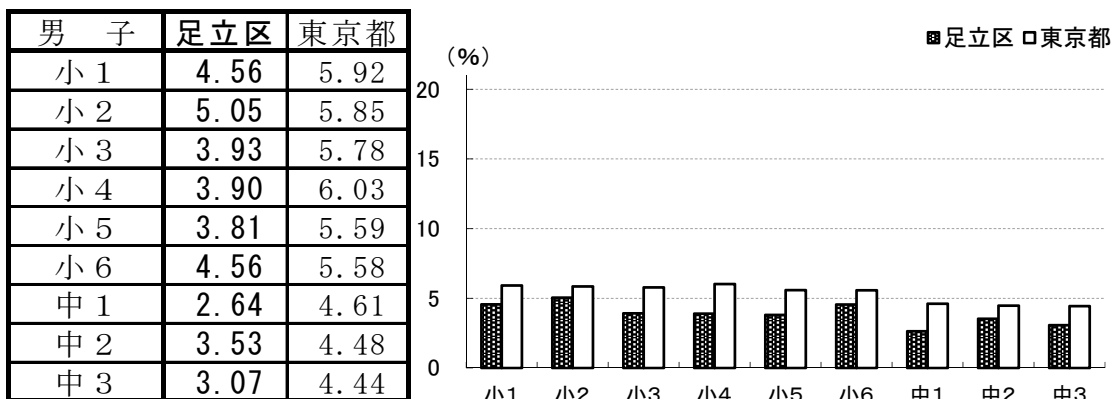


表29・図28 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位(%)

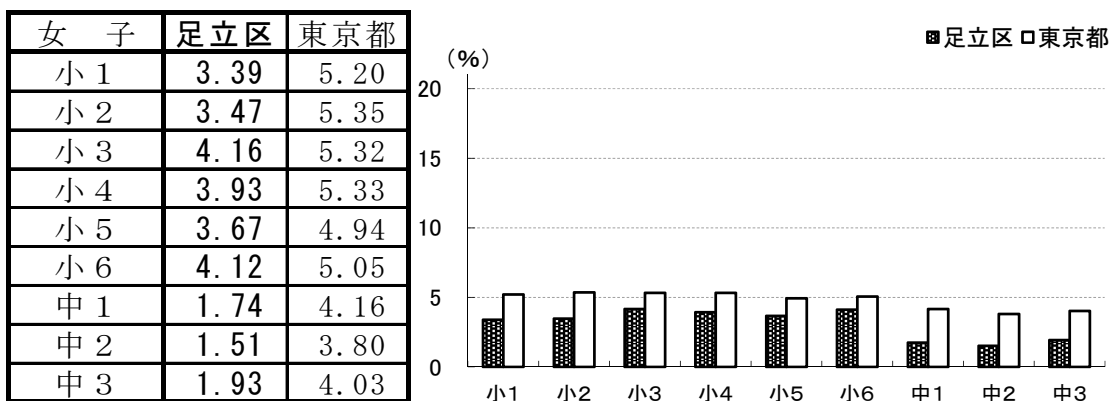


表30 年次推移 単位: 受診数・被患数(人)、被患率(%)

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	30,956	1,200 3.88%	31,146	1,121 3.60%	31,198	1,302 4.17%	31,115	1,531 4.92%	31,441	1,272 4.05%
中学生	14,000	347 2.48%	13,832	315 2.28%	13,504	342 2.53%	13,275	349 2.63%	12,865	310 2.41%

前年度に比べ小・中学生ともに減少した。小学生は4%前後、中学生は2%台で推移している。

エ 気管支喘息

気管支喘息の被患率は、女子よりも男子の割合が高かった。東京都との比較では、小学生は男女とも東京都平均を上回っているが、中学生は1・2年生男子、3年生女子で下回っていた。

表31・図29 学年別割合および東京都比較 【男子】 単位 (%)

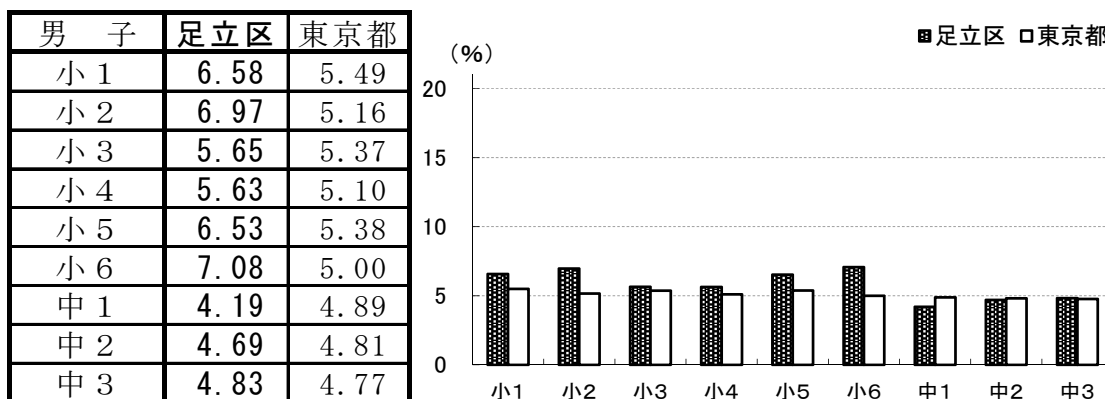


表32・図30 学年別割合および東京都比較 【女子】 単位 (%)

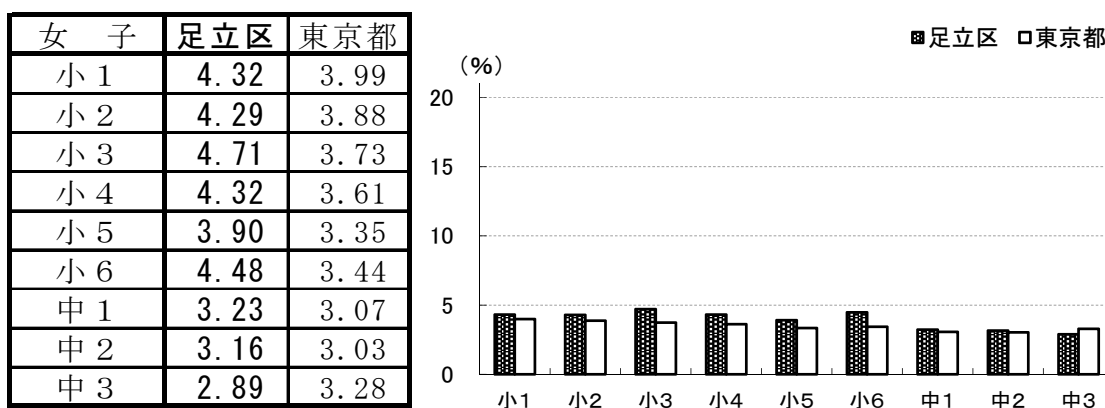


表33 年次推移

単位：受診数・被患数（人）、被患率（%）

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率	受診数	被患数 被患率
小学生	30,912	1,822 5.89%	31,146	1,755 5.63%	31,198	1,784 5.72%	31,115	1,779 5.72%	31,441	1,697 5.40%
中学生	14,000	734 5.24%	13,832	598 4.32%	13,504	557 4.12%	13,275	461 3.47%	12,865	494 3.84%

小学生は、前年度に比べ減少し、過去5年間で被患率が一番低かった。中学生は、前年度に比べやや増加した。

(6) 結核検診

小・中学校児童生徒の結核予防対策として実施している。

精密検査対象者は、前年度同様1名だったが、結核被患者は発見されなかった。

表 3 4 結核検診結果

単位(人)

		問診調査		学校医による診察		教育委員会での検討が必要とされた人数	精密検査対象者数		
		実施者数	要検討者数	実施者数	要検討者数		教育委員会対象となった人数	教育委員会検討対象となった割合(%)	
足立区	小学生	31,662	31,644	169 0.53%	31,415	8 0.03%	142 0.45%	1 0.003%	0.70%
	中学生	12,969	12,906	50 0.39%	12,541	3 0.02%	28 0.22%	0 0.000%	0.00%
	合計	44,631	44,550	219 0.49%	43,956	11 0.03%	170 0.38%	1 0.002%	0.59%

表 3 5 結核検診精密検査結果

単位(人)

		精密検査受検者数						精密検査結果					
		精密検査対象者数	精密検査受検者数	内 訳				要医療		経過観察	異常なし	精密検査受検者数から異常なしとなった割合(%)	
				ツベルクリン反応検査のみ	ツベルクリン反応検査・X線撮影	X線撮影	QFT検査	(診察のみ等)	要医療				予防内服(再掲)
足立区	小学生	1	1 100.00%	0	0	1	0	0	0	0	0	1	100.00%
	中学生	0	0 0.00%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	合計	1	1 100.00%	0	0	1	0	0	0	0	0	1	100.00%

(7) 心臓疾患検診

小・中学校児童生徒の心臓病疾患の早期発見と適切な健康管理を図るため、下記の検査を実施している。

表36 検査内容

アンケート調査		第1次検査		第2次検査	
内容	対象	内容	対象	内容	対象
アンケートによる異常者抽出	児童・生徒全員 ※ただし、小・中学1年生は参考用として用いる。	2点心音図 4誘導心電図	小・中学1年生全員 およびアンケートなどによる抽出者	標準12誘導心電図 専門医による問診聴打診 その他の必要な検査 負荷心電図 心エコー検査 4点心音図 など	第1次検査有所見者 および経過観察者

表37 検査結果 【小学生】

単位(人)

項目 区分	受診者数	有所見者数	有所見者内訳				要2次検査 対象者数
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常	
小1	5,207	58 1.11%	33 0.63%	0 0.00%	0 0.00%	25 0.48%	38 0.73%
他学年 抽出者	251	18 7.17%	5 1.99%	0 0.00%	4 1.59%	9 3.59%	14 5.58%
合計	5,458	76 1.39%	38 0.70%	0 0.00%	4 0.07%	34 0.62%	52 0.95%

表38 検査結果 【中学生】

単位(人)

項目 区分	受診者数	有所見者数	有所見者内訳				要2次検査 対象者数
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常	
中1	4,158	54 1.30%	19 0.46%	1 0.02%	2 0.05%	32 0.77%	75 1.80%
他学年 抽出者	114	10 8.77%	1 0.88%	0 0.00%	0 0.00%	9 7.89%	18 15.79%
合計	4,272	64 1.50%	20 0.47%	1 0.02%	2 0.05%	41 0.96%	93 2.18%

有所見者では、小学生・中学生ともに、先天性心疾患および心電図異常が多く見られた。

表39 心疾患別診断結果 【小学生】

単位(人)

項目 区分	先天性心疾患											後 天 性 心 疾 患	心電図異常										心 疾 患 の 他 計	合 計			
	VSD	ASD	PDA	PPS	TOF	AS	AVSD	TGA	MAR	その他	小計		右脚ブロック		期外収縮		房室ブロック			肥大		WPW			その他	小計	
													完全	不完全	心室性	上室性	1度	2度	3度	左室	右室						
小1	13	7	2	1	2	0	0	1	0	7	33	0	2	1	13	1	0	0	0	0	0	0	5	3	25	0	58
他学年 抽出者	2	2	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9	4	18
合計	15	9	2	2	2	0	0	1	0	12	38	0	2	1	21	1	0	0	0	0	0	0	6	3	34	4	76

表 4 0 心疾患別診断結果 【中学生】 単位(人)

項目 区分	先天性心疾患											心電図異常										心 疾 患 の 計	合 計			
	V S D	A S D	P D A	P T O F	A V S D	T G A	M R	そ の 他	小 計	右脚ブロック		期外収縮		房室ブロック			肥 大		W P W	そ の 他	小 計					
										完 全	不 完 全	心 室 性	上 室 性	1 度	2 度	3 度	左 室	右 室								
中 1	10	2	1	3	1	0	0	0	0	2	19	1	0	0	21	0	0	0	0	0	0	6	5	32	2	54
他学年 抽出者	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	4	2	9	0	10
合 計	11	2	1	3	1	0	0	0	0	2	20	1	1	0	23	0	0	0	0	0	0	10	7	41	2	64

注) 診断名について

VSD-心室中隔欠損 P S-肺動脈狭窄 AVSD-心内膜床欠損 WPW-WPW症候群
 ASD-心房中隔欠損 TOF-ファロー四徴 TGA-大血管転位
 PDA-動脈管開存 AS-大動脈弁狭窄 MR-僧帽弁閉鎖不全症

小学生・中学生ともに、先天性心疾患ではVSD(心室中隔欠損)が多く、心電図異常では心室性期外収縮が最も多かった。

(8) 尿検査(腎臓検診・糖尿病検診)

小・中学校児童生徒の腎臓病、糖尿病の早期発見と適切な健康管理を図るため、下記の検査を実施している。

表 4 1 腎臓検診 検査内容

第1次検査	第2次検査	第3次検査
試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH)	試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH) 必要により沈渣顕微鏡検査	尿検査(四法方式) 小児科医による一般的診断 血圧測定 血液学的検査 血液生化学的検査 免疫学的検査

表 4 2 腎臓検診 検査結果 単位(人)

項目 種別	第1次検査		第2次検査		検 診 第 3 次 者 数	有 所 見 者 数	有 所 見 者 内 訳						
	受診者数	陽性者数 (±以上)	受診者数	陽性者数 (±以上)			要 受 診			単 独 所 見			
							腎 炎	腎 炎 疑	尿 路 感 染 症	血 尿	微 少 血 尿	蛋 白 尿	そ の 他
小学生	31,576	1,123 3.56%	1,064	378 1.20%	287	193 0.61%	0 0.00%	2 0.01%	4 0.01%	77 0.24%	90 0.29%	20 0.06%	0 0.00%
中学生	13,079	1,232 9.42%	1,125	309 2.36%	248	116 0.89%	0 0.00%	1 0.01%	6 0.05%	20 0.15%	41 0.31%	47 0.36%	1 0.01%

※要受診者の症状(血尿や尿蛋白の重複)は、単独所見の件数に含まれていない。

※起立性蛋白尿は管理不要とし有所見者数に含まれていない。

第3次検査の結果、小学生に2人、中学生に1人、腎炎の疑いのある者が発見された。

表 4 3 糖尿病検診 検査内容

第1次検査	第2次検査	第3次検査
試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH)	試験紙法による尿検査 (蛋白・糖・潜血・PH) 必要により沈渣顕微鏡検査	尿検査 (尿糖、インスリン、アセトン) 専門医による診察 ブドウ糖負荷試験(血糖、尿糖) 血液検査

表 4 4 糖尿病検診 検査結果

単位 (人)

種別	第 1 次 検 査		第 2 次 検 査		検 診 第 3 次 者 数	有 所 見 者 数	有 所 見 者 内 訳				
	受診者数	陽性者数 (±以上)	受診者数	陽性者数 (±以上)			糖尿病	糖尿病 疑	耐糖能 異常	高インス リン血症	その他
小学生	31,576	32 0.10%	29	7 0.02%	2	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
中学生	13,079	32 0.24%	28	10 0.08%	5	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

第3次検査の結果、小学生・中学生ともに、有所見者はいなかった。

表 4 5 糖尿病発見数の年次推移

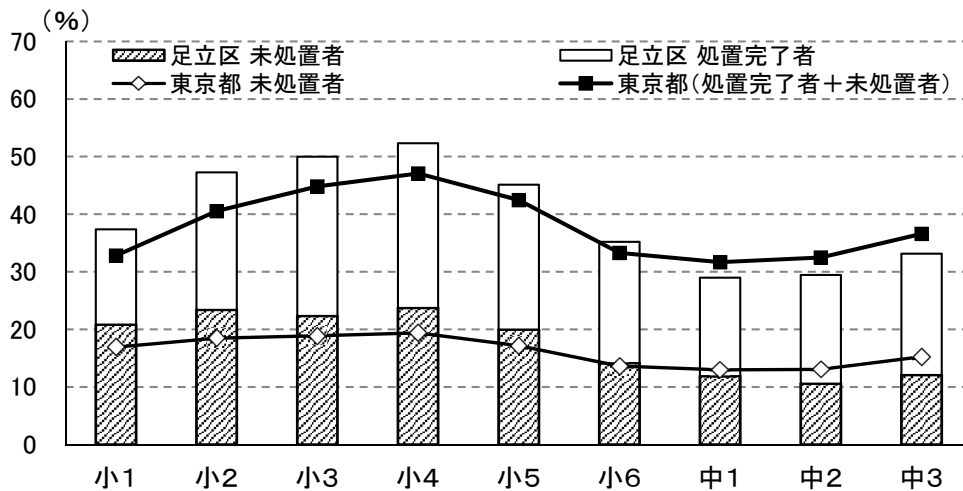
単位 (人)

種別	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小学生	0	0	0	1	0
中学生	1	1	2	1	0

(9) 歯科健診

ア 乳歯または永久歯のむし歯（治療済みのむし歯も含む）のある児童生徒の割合

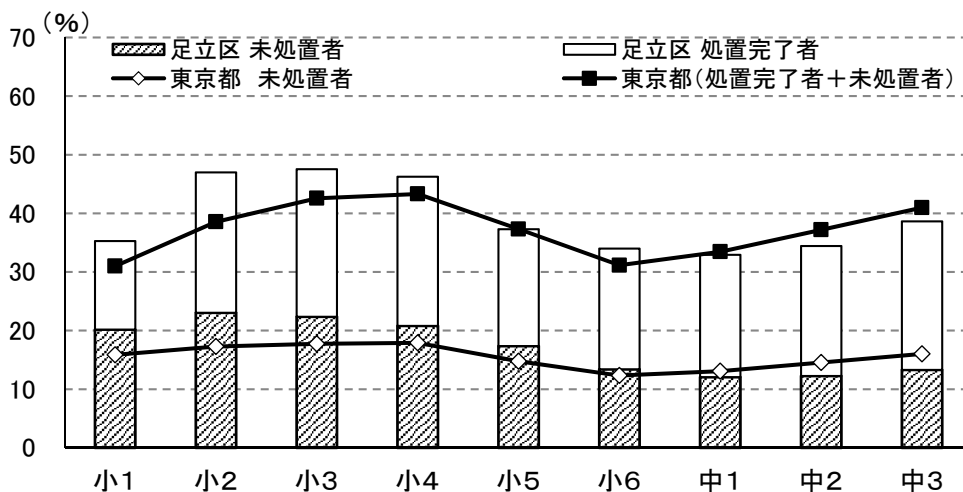
図31・表46 学年別割合および東京都比較 【男子】



単位 (%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	37.36	47.26	49.98	52.32	45.12	35.20	28.98	29.43	33.14
	東京都	32.80	40.52	44.80	47.07	42.44	33.29	31.66	32.49	36.58

図32・表47 学年別割合および東京都比較 【女子】



単位 (%)

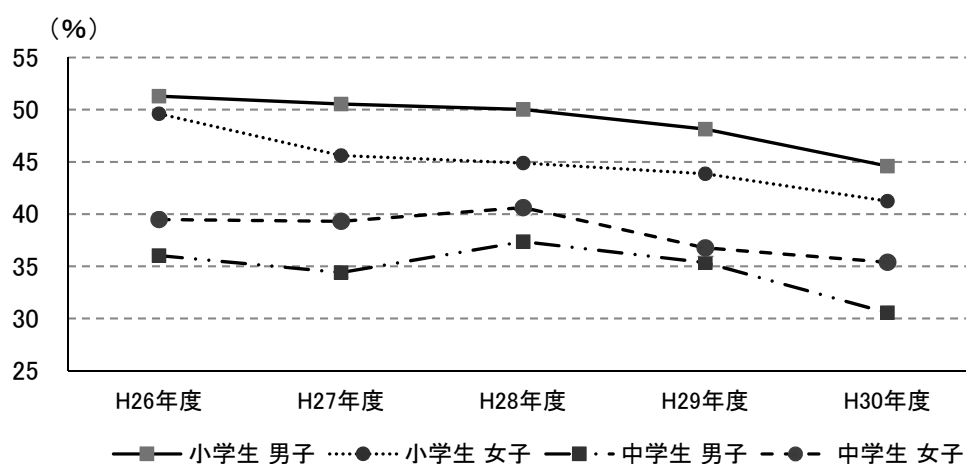
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	35.26	46.99	47.54	46.24	37.29	33.99	32.92	34.43	38.62
	東京都	30.99	38.56	42.57	43.31	37.32	31.15	33.45	37.19	40.98

むし歯の被患率は、永久歯に生え変わる小学校高学年で一旦減少し、再び微増していた。東京都との比較では、小学5年生女子、中学生を除き、東京都平均を上回っていた。未処置者の割合は、男女とも小学生では東京都平均を上回っていたが、中学生では東京都平均を下回っていた。

表48・図33 むし歯のある児童生徒の割合の年次推移
単位 (%)

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小学生	男子	51.30	50.54	50.02	48.14	44.60
	女子	49.61	45.60	44.89	43.86	41.24
	総数	50.47	48.13	47.52	46.06	42.97
中学生	男子	36.02	34.40	37.36	35.34	30.54
	女子	39.47	39.31	40.62	36.75	35.38
	総数	37.69	36.76	38.96	36.04	32.95

『う歯被患率 = (処置完了者 + 未処置歯のある者) ÷ 歯科受診者数 × 100』とした。



小学生・中学生ともに、むし歯被患率は前年度より減少し、過去5年間で一番低かった。

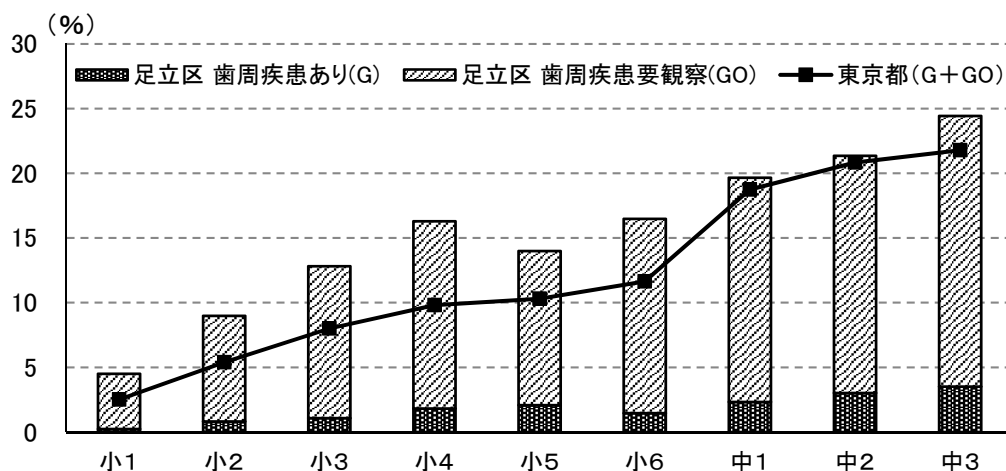
表49 むし歯のある児童生徒の割合の学年別年次推移 単位 (%)

	男子					女子				
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小1	45.64	44.13	41.08	40.79	37.36	41.60	39.22	39.28	38.82	35.26
小2	56.17	53.33	51.32	47.97	47.26	54.74	46.55	47.17	45.49	46.99
小3	59.32	59.51	58.30	55.59	49.98	56.79	53.61	50.80	49.51	47.54
小4	60.19	56.51	59.32	56.95	52.32	57.63	52.84	52.33	49.98	46.24
小5	49.69	52.76	49.10	50.06	45.12	46.59	46.66	43.96	44.60	37.29
小6	38.10	37.56	40.44	35.94	35.20	40.62	35.38	36.25	34.17	33.99
中1	33.99	33.19	36.15	33.73	28.98	36.14	37.48	38.08	33.50	32.92
中2	35.59	33.69	34.83	35.31	29.43	40.07	39.62	39.25	36.10	34.43
中3	38.66	36.19	40.90	36.95	33.14	42.24	40.81	44.41	40.78	38.62

平成26年度と比較すると、むし歯のある児童生徒の割合は、男女ともすべての学年で減少した。そのうち小学3年生男女、小学4・5年生女子で10%近く減少した。

イ 歯肉に所見^{*}のある児童生徒の割合 (※= G:歯周疾患あり+GO:歯周疾患要観察)

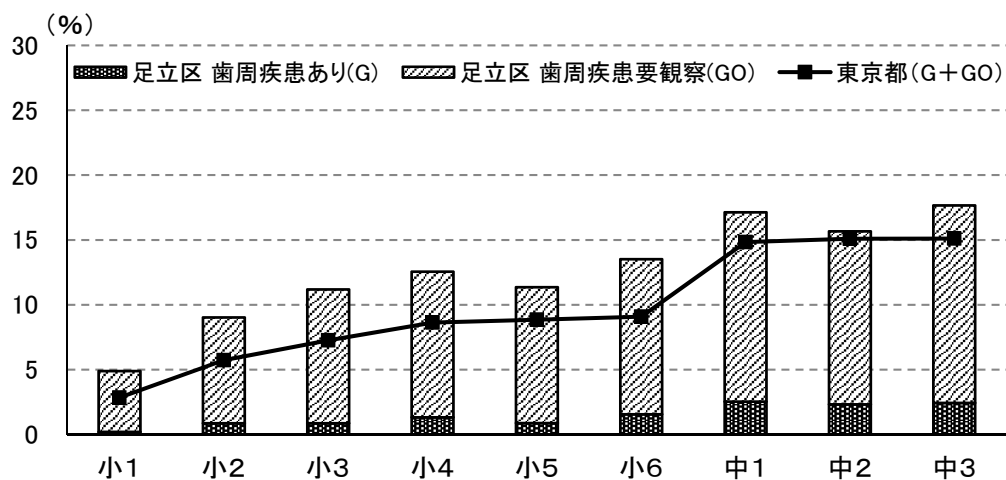
図34・表50 学年別割合および東京都比較 【男子】



単位(%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	4.50	8.98	12.82	16.29	13.99	16.48	19.65	21.36	24.43
	東京都	2.51	5.39	8.00	9.81	10.30	11.64	18.74	20.83	21.78

図35・表51 学年別割合および東京都比較 【女子】



単位(%)

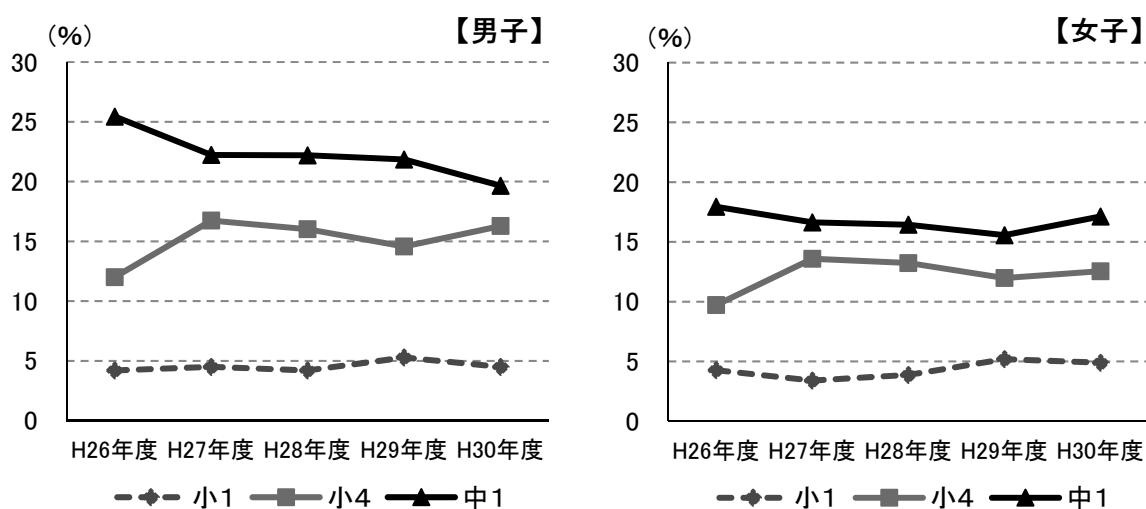
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
女子	足立区	4.89	9.02	11.19	12.55	11.36	13.51	17.13	15.66	17.66
	東京都	2.84	5.73	7.26	8.63	8.85	9.08	14.83	15.10	15.11

男女を比較すると、歯肉に所見のある児童生徒の割合は、小学1・2年生を除き、すべての学年で男子の割合が多かった。

東京都と比較すると、男女ともにすべての学年で東京都平均を上回っていた。特に小学生は東京都平均を大幅に上回った学年が多かった。

表52・図36 歯肉に所見のある児童生徒（G+GO）の年次推移 単位（%）

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
小1	男子	4.20	4.50	4.20	5.28	4.50
	女子	4.27	3.40	3.87	5.19	4.89
小4	男子	12.01	16.74	16.02	14.57	16.29
	女子	9.72	13.59	13.23	11.98	12.55
中1	男子	25.44	22.23	22.20	21.85	19.65
	女子	17.94	16.63	16.44	15.56	17.13



男女とも学年が上がるにつれて所見のある割合が高かった。しかし、女子が横ばいであることにに対し、男子は中学1年生で減少傾向だった。

<参考> 足立区糖尿病対策アクションプラン「歯科口腔保健対策編」より

■ 永久歯のう蝕（う歯）予防

単位（%）

足立区糖尿病対策アクションプランの目標 （2022年度の目標）		H27年	H28年	H29年	H30年
小1でむし歯のない子の割合	65	58.23	59.79	60.18	63.67
小4で永久歯にむし歯のない子の割合	87	85.46	85.06	85.97	86.94
中1で永久歯にむし歯のない子の割合	70	69.89	68.45	72.15	73.80

■ 歯肉炎の予防

単位（%）

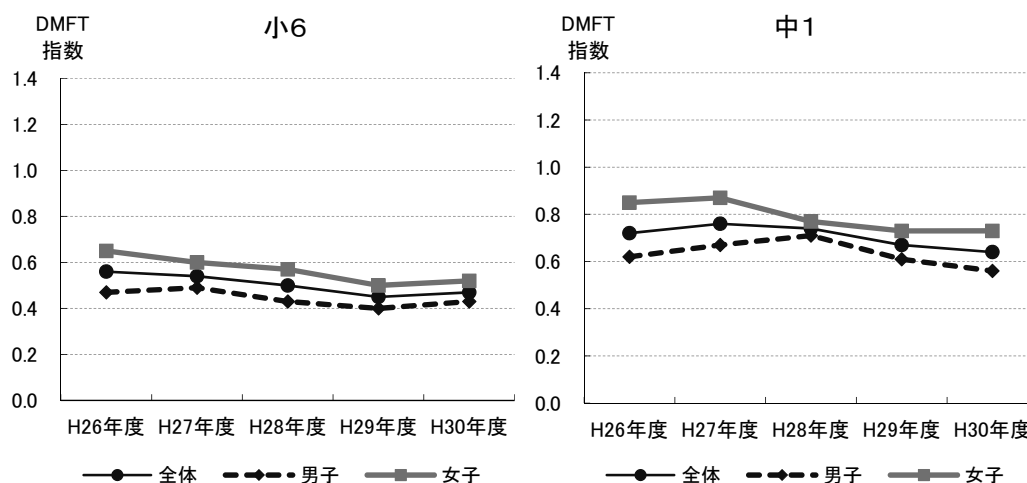
足立区糖尿病対策アクションプランの目標 （2022年度の目標）		H27年	H28年	H29年	H30年
小4で歯肉に所見のない児童の割合	90	84.81	85.33	86.68	85.51
中1で歯肉に所見のない生徒の割合	84	80.50	80.65	81.31	81.58

ウ DMFT指数（1人平均永久歯のむし歯保有数）

永久歯の一人平均う歯経験歯数（DMFT指数）の算出方法	
DMFT指数とは永久歯のむし歯経験歯数が、一人あたり何本あるかを示す数値	
D	……decayed：永久歯のむし歯で未処置の歯
M	……missing because of decayed：むし歯が原因で失った永久歯
F	……filled：永久歯のむし歯で処置を完了した歯
T	……teeth（歯）の頭文字
$\text{DMFT指数} = \frac{\text{受診者のDMF歯の合計}}{\text{受診者数}}$	

表53・図37 DMFT指数 年次推移

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
小 6	総数	DMFT指数	0.56	0.54	0.50	0.45	0.47	
	う歯	喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		処置歯数(F)	0.39	0.35	0.31	0.29	0.31	
		未処置歯数(D)	0.17	0.19	0.18	0.17	0.17	
	男子	DMFT指数	0.47	0.49	0.43	0.40	0.43	
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		う歯	処置歯数(F)	0.32	0.31	0.26	0.25	0.28
	歯	未処置歯数(D)	0.15	0.18	0.16	0.15	0.15	
		女子	DMFT指数	0.65	0.60	0.57	0.50	0.52
			喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	う歯		処置歯数(F)	0.46	0.40	0.36	0.32	0.34
	歯	未処置歯数(D)	0.19	0.20	0.21	0.18	0.18	
中 1		総数	DMFT指数	0.72	0.76	0.74	0.67	0.64
		う歯	喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	処置歯数(F)		0.51	0.50	0.49	0.47	0.44	
	未処置歯数(D)		0.21	0.26	0.25	0.20	0.20	
男子	DMFT指数	0.62	0.67	0.71	0.61	0.56		
	喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
	う歯	処置歯数(F)	0.42	0.44	0.47	0.42	0.37	
歯	未処置歯数(D)	0.20	0.22	0.24	0.19	0.19		
	女子	DMFT指数	0.85	0.87	0.77	0.73	0.73	
		喪失歯数(M)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
う歯		処置歯数(F)	0.62	0.56	0.51	0.52	0.51	
歯	未処置歯数(D)	0.23	0.31	0.25	0.21	0.22		



DMFT指数は、小学6年生は男女とも年々減少傾向にあったが、微増した。中学1年生は男子が微減した。

4 脊柱側わん症検診

小・中学校児童生徒の脊柱異常の早期発見・適切な健康管理を図るため、下表の検診を実施している（足立区独自で実施の検診）。

表54 検診内容

第1次検診			第2次検診		
内容	対象者		内容	対象者	
モアレ撮影 (立位背面)	1) 小学5年・中学2年の全員 2) 前年度に次年度モアレ撮影となった者 3) 他学年抽出者		直接エックス線撮影 専門医の診察	1) 今年度要精密検査になった者 2) 前年度に次年度エックス線撮影となった者	

※他学年抽出者とは、定期健康診断で校医が必要と認めた者。

表55 第1次検診結果

単位（人）

区分	項目	受診者数			有所見者			有所見者の内訳								
		男子	女子	総数	男子	女子	総数	病院管理			次年度モアレ再検査			要2次検診		
								男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数
小学生	小5	2,738	2,505	5,243	56	173	229	1	1	2	55	153	208	0	19	19
	他学年				2.05%	6.91%	4.37%	0.04%	0.04%	0.04%	2.01%	6.11%	3.97%	0.00%	0.76%	0.36%
	前年より 1次受診	55	163	218	22	105	127	0	0	0	17	56	73	5	49	54
中学生	中2	2,138	2,166	4,304	140	314	454	2	3	5	129	226	355	9	85	94
	他学年				6.55%	14.50%	10.55%	0.09%	0.14%	0.12%	6.03%	10.43%	8.25%	0.42%	3.92%	2.18%
	前年より 1次受診	135	292	427	78	205	283	0	0	0	5	17	22	73	188	261
	1次受診	53	51	104	4	11	15	0	0	0	0	3	3	4	8	12

表56 第2次検診結果

単位（人）

区分	項目	対象者数			受診者数			第2次検診結果									
		男子	女子	総数	男子	女子	総数	要治療			要経過観察			次年度直接XP再検査			正常範囲
								男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	総数
小学生	小5	0	19	19	0	15	15	0	3	3	0	7	7	0	3	3	2
	他学年				4	46	50	2	6	8	0	14	14	2	23	25	3
	前年より 1次受診	5	52	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学生	中2	12	91	103	10	70	80	0	10	10	4	34	38	4	22	26	6
	他学年				61	187	248	0	9	9	32	118	150	2	9	11	78
	前年より 1次受診	78	225	303	4	6	10	0	0	0	1	5	6	0	1	1	3
	1次受診	4	8	12	4	6	10	0	0	0	1	5	6	0	1	1	3

※第2次検診の対象者は、前年の検診結果により第2次検診のみ再検査の者が含まれる。

男子より女子の方が、要治療、要経過観察者が多かった。

5 就学時健康診断

小学校への就学予定児を対象に、その心身の状態を把握し、健康上、適正な就学指導を行うため、毎年各小学校で健康診断を実施している。

表57 就学時健康診断結果

単位(人)

	男子	女子	計	
① 受診者数	2,566	2,535	5,101	-
② 栄養不良	0	1	1	0.02%
③ 肥満傾向	15	9	24	0.47%
④ 脊柱異常	2	1	3	0.06%
⑤ 胸郭異常	3	0	3	0.06%
⑥ 裸眼視力0.3未満の者	42	36	78	1.53%
⑦ 難聴(両耳)	46	55	101	1.98%
⑧ 眼の疾病及び異常	118	122	240	4.70%
⑨ 耳鼻咽喉頭疾患	546	456	1,002	19.64%
⑩ 皮膚疾患	84	73	157	3.08%
⑪ 心臓の異常	14	13	27	0.53%
⑫ 運動機能障害	0	1	1	0.02%
⑬ 身体虚弱	0	0	0	0.00%
⑭ その他の疾病及び異常	44	24	68	1.33%
⑮ う歯処置完了者	175	155	330	6.47%
⑯ う歯未処置歯のある者	460	430	890	17.45%
⑰ 不正咬合	118	160	278	5.45%
⑱ その他口腔の疾病及び異常	71	76	147	2.88%

表58・図38 裸眼視力0.3未満の年次推移

単位(%)

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
男子	1.37	1.11	1.51	1.97	1.64
女子	1.05	1.05	1.13	1.19	1.42

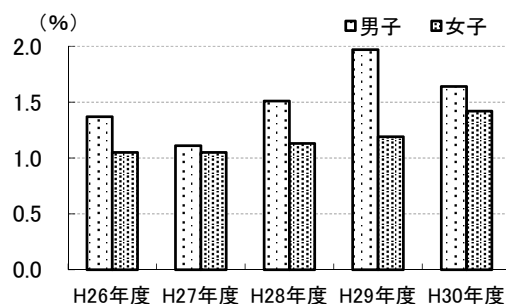
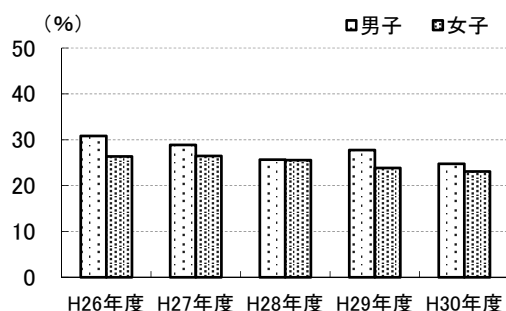


表59・図39 う歯有病率の年次推移

単位(%)

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
男子	30.84	28.87	25.67	27.77	24.75
女子	26.35	26.47	25.56	23.84	23.08



6 児童生徒の感染症り患状況

(1) 調査の概要

小・中学校の児童生徒を対象に、学校感染症による出席停止者数を調査している。流行の状態を把握し、感染症予防に役立っている。

(2) 月別患者数

表60 出席停止月別患者数 【小学生】

単位(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	
第2種	インフルエンザ	67	24	16	0	0	20	4	97	451	4,598	1,399	67	6,743
	百日咳	0	1	0	0	0	2	1	2	4	1	3	3	17
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	流行性耳下腺炎	9	13	13	8	0	10	10	13	9	7	4	6	102
	風疹	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
	水痘	59	29	33	22	0	23	30	90	87	56	64	88	581
	咽頭結膜熱	5	7	13	8	0	5	1	6	6	4	1	1	57
	結核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
第3種	流行性角結膜炎	1	7	4	2	0	6	9	21	7	7	1	4	69
	急性出血性結膜炎	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
	腸チフス・パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	溶連菌感染症	167	190	206	82	0	82	122	184	220	121	132	100	1,606
	手足口病	1	1	4	6	0	15	17	14	9	3	0	1	71
	伝染性紅斑	14	52	49	20	0	13	15	48	47	61	24	22	365
	ヘルパンギーナ	2	1	3	23	0	8	12	3	3	2	0	0	57
	マイコプラズマ感染症	3	7	2	2	0	3	25	18	14	9	9	5	97
	感染性胃腸炎	96	147	107	67	0	45	56	143	163	157	120	74	1,175
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帯状疱疹	1	0	3	0	0	3	0	1	1	1	3	3	16	
その他	1	0	1	1	0	1	11	5	5	1	2	10	38	
月計	426	479	454	243	0	237	314	647	1,026	5,030	1,762	384	11,002	

表61 出席停止月別患者数 【中学生】

単位(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	
第2種	インフルエンザ	11	1	0	0	0	0	1	4	92	1,550	522	35	2,216
	百日咳	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎	1	2	0	0	0	2	1	1	0	2	0	0	9
	風疹	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	水痘	2	3	1	0	0	1	1	4	1	6	0	3	22
	咽頭結膜熱	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	結核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
第3種	流行性角結膜炎	0	2	0	2	0	3	6	2	0	1	0	2	18
	溶連菌感染症	11	19	17	3	0	5	13	9	8	11	7	10	113
	手足口病	1	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	5
	伝染性紅斑	0	0	0	1	0	1	0	4	1	4	1	1	13
	ヘルパンギーナ	1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	6
	マイコプラズマ感染症	2	2	0	1	0	0	8	4	6	4	4	0	31
	感染性胃腸炎	17	39	30	16	0	23	26	51	53	92	60	15	422
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	帯状疱疹	0	0	1	0	0	0	2	0	1	1	1	0	6
	その他	1	0	0	0	0	2	0	4	0	0	1	0	8
月計	47	68	50	26	0	42	62	85	164	1,671	596	66	2,877	

(3) 過去3年間の主な感染症り患状況

※グラフは8月除く

図40 インフルエンザ(小学生)

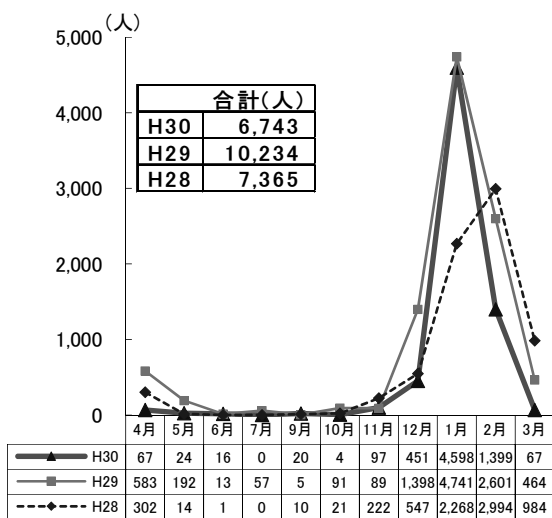
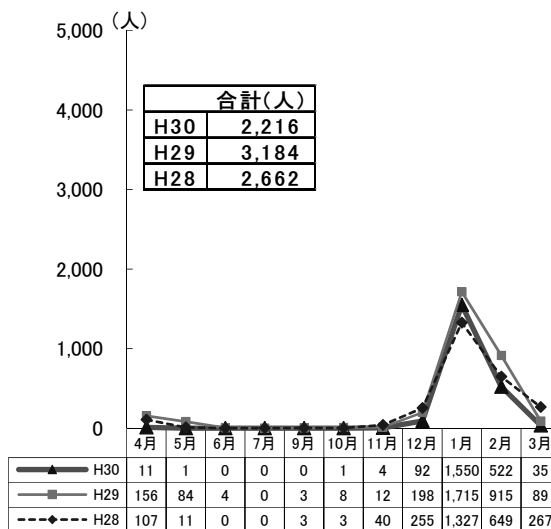


図41 インフルエンザ(中学生)



インフルエンザのり患者数は、前年度と比較すると、7割弱に減少した。ピークの1月以外のり患者数は、過去2年に比べ大きく減少した。

図42 溶連菌感染症(小学生)

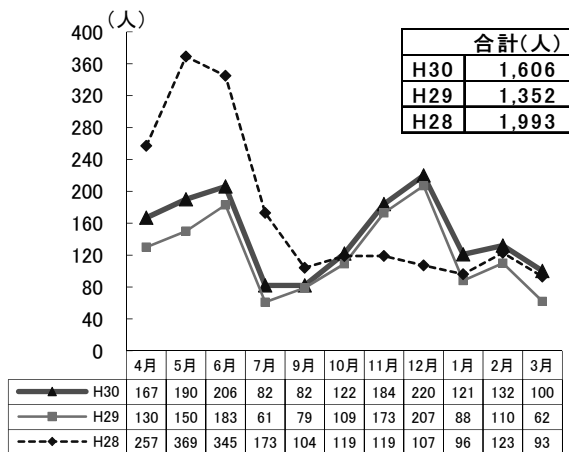
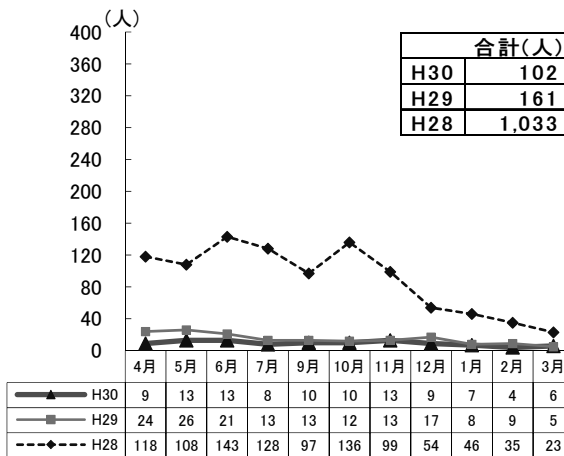


図43 流行性耳下腺炎(小学生)



小学生の溶連菌感染症・流行性耳下腺炎ともに前年度と流行時期が類似していた。り患者数は、溶連菌感染症は増加、流行性耳下腺炎は減少した。

7 学校管理下における災害統計

災害統計は、小・中学校の管理下における児童生徒の災害報告のまとめである。

(1) 災害発生状況

表 6 2 災害発生件数および発生率

単位 在籍数（人） / 件数（件）

	小学生			中学生			合計		
	在籍数	災害件数	発生率	在籍数	災害件数	発生率	在籍数	災害件数	発生率
H26年度	31,145	1,063	3.41%	14,477	677	4.68%	45,622	1,740	3.81%
H27年度	31,322	988	3.15%	14,307	597	4.17%	45,629	1,585	3.47%
H28年度	31,434	915	2.91%	14,070	589	4.19%	45,504	1,504	3.31%
H29年度	31,393	807	2.57%	13,822	552	3.99%	45,215	1,359	3.01%
H30年度	31,668	792	2.50%	13,434	509	3.79%	45,102	1,301	2.88%

※災害件数には、疾病件数(平成30年度は小学校49件、中学校：34件)を含む。

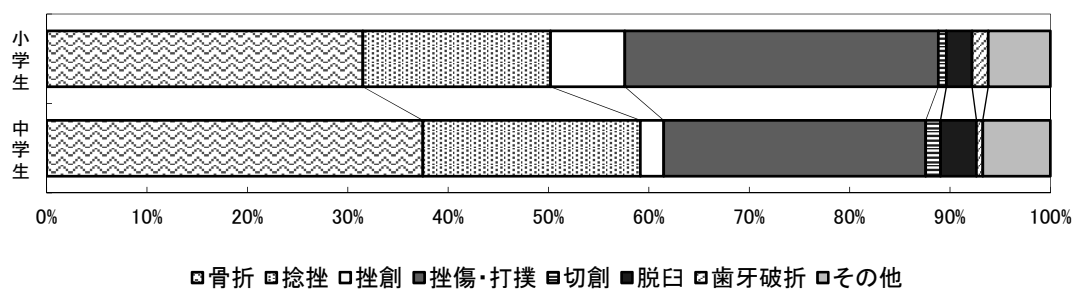
※在籍数は各年度5月1日現在の人数。

過去5年間の災害発生件数および発生率は、小学生・中学生ともに平成30年度が最も少なかった。

表 6 3 ・ 図 4 4 負傷の種類

単位（件）

種類		骨折	捻挫	挫創	挫傷・打撲	切創	脱臼	歯牙破折	その他	合計
小学生	件数	234	139	55	232	6	19	12	46	743
	割合	31.49%	18.71%	7.40%	31.22%	0.81%	2.56%	1.62%	6.19%	100.0%
中学生	件数	178	103	11	124	7	17	3	32	475
	割合	37.47%	21.68%	2.32%	26.11%	1.47%	3.58%	0.63%	6.74%	100.0%
合計	件数	412	242	66	356	13	36	15	78	1,218
	割合	33.83%	19.87%	5.42%	29.23%	1.07%	2.96%	1.23%	6.40%	100.0%



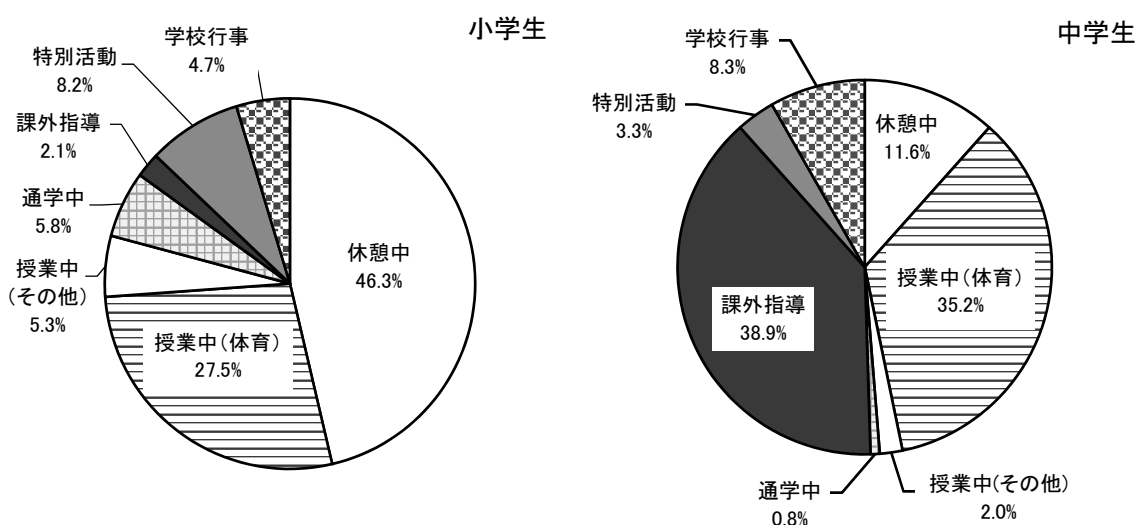
小学生は骨折と挫傷・打撲、中学生は骨折が多かった。

表 6 4 ・ 図 4 5 災害発生時の活動状況

単位 (件)

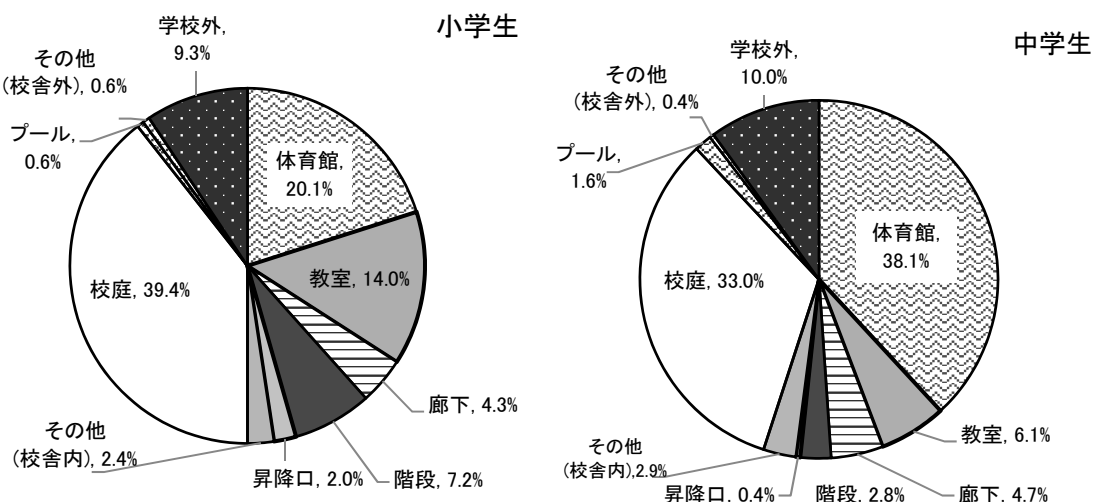
時間帯		休憩中	授業中		通学中	課外指導	特別活動	学校行事	合計
			体育	その他					
小学生	件数	367	218	42	46	17	65	37	792
	割合	46.34%	27.53%	5.30%	5.81%	2.15%	8.21%	4.67%	100.0%
中学生	件数	59	179	10	4	198	17	42	509
	割合	11.59%	35.17%	1.96%	0.79%	38.90%	3.34%	8.25%	100.0%
合計	件数	426	397	52	50	215	82	79	1,301
	割合	32.74%	30.51%	4.00%	3.84%	16.53%	6.30%	6.07%	100.0%

※休憩中 … 始業前、放課後等を含む。
 課外指導 … 部活動、林間学校、水泳指導など。



小学生は休憩中の災害、中学生は課外指導・体育の授業中の災害が多かった。

図 4 6 災害発生時の場所

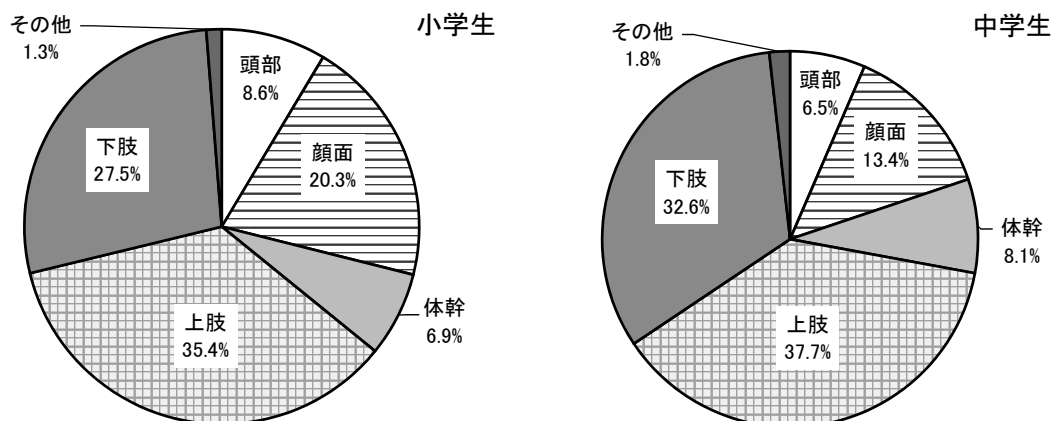


小学生は校庭、中学生は体育館での災害が一番多かった。

表 65・図 47 災害の部位別発生状況

単位 (件)

部位別		頭 部	顔 面	体 幹	上 肢	下 肢	その他	合 計
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数
小学生	件数	68	161	55	280	218	10	792
	割合	8.59%	20.33%	6.94%	35.35%	27.53%	1.26%	100.0%
中学生	件数	33	68	41	192	166	9	509
	割合	6.48%	13.36%	8.06%	37.72%	32.61%	1.77%	100.0%
合計	件数	101	229	96	472	384	19	1,301
	割合	7.76%	17.60%	7.38%	36.28%	29.52%	1.46%	100.0%

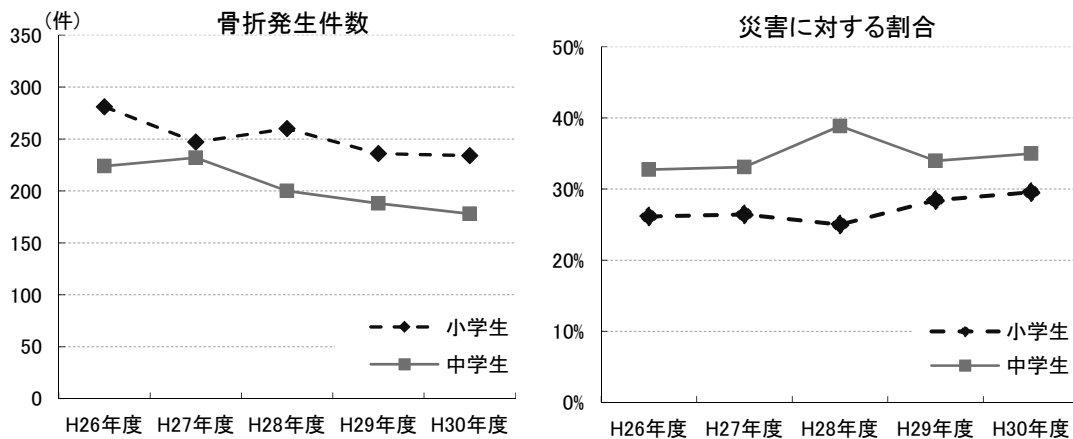


小学生、中学生ともに上肢を負傷する災害が一番多かった。

表 66・図 48 骨折発生件数および発生率の推移

単位 (件)

	小学生			中学生			合 計		
	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合	件数	在籍数に対する骨折の割合	災害に対する割合
H26年度	281	0.90%	26.43%	224	1.55%	33.09%	505	1.11%	29.02%
H27年度	247	0.79%	25.00%	232	1.62%	38.86%	479	1.05%	30.22%
H28年度	260	0.83%	28.42%	200	1.42%	33.96%	460	1.01%	30.59%
H29年度	236	0.75%	29.24%	188	1.36%	34.05%	424	0.93%	31.19%
H30年度	234	0.74%	29.55%	178	1.32%	34.97%	412	0.91%	31.67%



小学生、中学生ともに骨折発生数は過去5年間で一番少なかったが、災害に対する割合は前年度に比べやや増加した。

(2) 災害共済掛金および給付状況

表 6 7 災害共済掛金 単位 (円)

	掛 金 額
小学校	28,407,925
中学校	12,204,235
合 計	40,612,160

表 6 8 給付件数・金額

単位：件数 (件) / 金額 (円)

	小学校		中学校		合計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金額
死亡見舞金	0	0	0	0	0	0
障害見舞金	0	0	0	0	0	0
医療費給付	1,469	10,994,393	1,219	11,507,851	2,688	22,502,244
供 花 料	0	0	0	0	0	0
合 計	1,469	10,994,393	1,219	11,507,851	2,688	22,502,244

表 6 9 医療費別給付状況

単位：件数 (件) / 金額 (円)

種類 月	小学校		中学校		合計	
	件数	給付金額	件数	給付金額	件数	金額
4	164	1,568,446	101	1,332,523	265	2,900,969
5	199	1,262,390	112	626,670	311	1,889,060
6	88	489,030	121	852,925	209	1,341,955
7	107	821,357	85	942,188	192	1,763,545
8	135	1,028,468	99	1,039,469	234	2,067,937
9	101	639,864	158	1,270,454	259	1,910,318
10	11	65,280	20	270,432	31	335,712
11	119	923,705	150	1,219,905	269	2,143,610
12	104	985,528	99	901,447	203	1,886,975
1	153	1,121,853	88	1,076,594	241	2,198,447
2	170	1,188,648	74	547,925	244	1,736,573
3	118	899,824	112	1,427,319	230	2,327,143
合 計	1,469	10,994,393	1,219	11,507,851	2,688	22,502,244

災害1件あたりの平均給付金額

¥17, 296-

災害1件あたりの平均給付金額＝合計給付金額／災害発生件数(給付件数ではない)
「負傷の種類」や「災害発生時の活動状況」等の数字は“負傷”の件数で“疾病”の件数は入っていない。
災害発生件数は“負傷”件数＋“疾病”件数である。

【資料1】 貧血・小児生活習慣病予防健診 判定基準

1 『項目別判定』及び『コメント』

(1) 小児生活習慣病予防健診

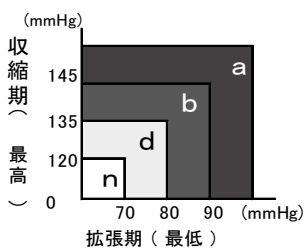
① 肥満(肥満度)

肥満度は、年齢・性別・身長別の標準体重から算出する。

肥満度(%)	判定	
50.0%以上	a	かなりの肥満
30.0 ~ 49.9%	b	肥満
20.0 ~ 29.9%	c	肥満ぎみ
-19.9 ~ 19.9%	n	正常体格群
-20.0%以下	y	やせすぎ傾向

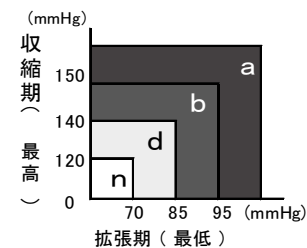
② 血圧

小学生【男女】と中学生【女】



a : 高血圧
b : 軽度の高血圧

中学生【男】と高校生【男女】



d : 正常範囲だがやや高め
n : 正常範囲

③ 血清脂質

(ア) 総コレステロールとHDLコレステロール

総コレステロール (mg/dl)	HDLコレステロール (mg/dl)	
	≥ 40	>
280	a	a
240	b	a
220	c	b
190	d	c
	n	d

(イ) LDLコレステロール

190 mg/dl 以上	a
160 ~ 189 mg/dl	b
140 ~ 159 mg/dl	c
110 ~ 139 mg/dl	d
109 mg/dl 以下	n

a : 血清脂質の値にかなり異常
b : 血清脂質の値に異常
c : 血清脂質の値に異常傾向
d : 血清脂質の値にやや異常傾向
n : 正常範囲

血清脂質判定において、(ア)と(イ)の判定が異なるときはより重い方の判定を採択し、両者が同一判定区分であれば(aとa、nとnを除く)1ランク上の重い判定とする。

(2) 貧血検査

性別・年齢別の基準値 ※平成29年度に基準値・分類を変更。

		白血球数(/mm ³)	
男女	全員	3,000 ~ 12,900	
男子	6~12歳	371 ~ 600	11.6 ~ 16.0
	13~14歳		12.1 ~ 17.0
	15歳		12.6 ~ 18.0
	16歳以上		13.1 ~ 18.0
女子	6~12歳	371 ~ 600	11.6 ~ 16.0
	13歳以上		12.0 ~ 16.0

平均赤血球容積(FI) : 75.0 ~ 99.9

2 『総合判定区分』及び『指導コメント』

I-1	糖尿病が(a)	要医学的管理	引き続き専門医を受診してください。
I-2	1項目でも(a)※I-1除く	要医学的管理	専門医に相談してください。
I-3	(a)は無いが「血圧」「脂質」共に(b)	要医学的管理	専門医に相談してください。
II	(a)は無いが1項目でも(b)	要経過観察	医師や学校の先生・保護者の方などと相談し、バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。6ヶ月~1年後には再検査を受けてください。
III	(a)(b)はないが1項目でも(c)	要生活指導	バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。
IV	(a)(b)(c)はないが1項目でも(d)	管理不要	今後とも、正しい生活習慣を心がけてください。※次回の健診時にいろいろな検査項目の変化にもよく注意してみてください。
n	すべての項目が(n)	正常	今回の健診結果では特に異常はありませんでした。現在のよい状態を続けるよう心がけてください。

3 ヘモグロビンA1cの判定基準

高値	a	6.5%以上	専門医療機関で精密検査をお勧めします。
	b	6.0~6.4%	医療機関(かかりつけ医、学校医)で再検査(空腹時血糖・ヘモグロビンA1c検査)をお勧めします。
正常範囲	d	5.6~5.9%	正常高値です(2年生は来年度、学校で再検査)。
	n	5.5%以下	正常範囲内です。

【資料 2】 定期健康診断疾病異常調査の概要

1 調査の内容

学校保健安全法による定期健康診断の結果から、区立小・中学校の児童生徒の健康状態を把握することを目的に調査を実施している。

(1) 対象

区立小・中学校における平成30年度定期健康診断を受診した児童生徒全員

(2) 項目

学校保健安全法に基づく定期健康診断における検査項目及び、その他、児童生徒の健康実態を把握するために必要な事項

- ア 児童生徒の発育状態（身長・体重・肥満度）
- イ 疾病異常調査 調査項目の詳細については、次頁参照

(3) 期間

学校保健安全法による定期健康診断実施時期、平成30年4月～6月末日までの間

(4) 方法

- ア 児童生徒の発育状態
各小・中学校から「身体計測(身長・体重)及び肥満度報告」を回収し、集計する。
- イ 疾病異常調査
各小・中学校から「定期健康診断疾病異常調査票」を回収、集計し東京都へ報告する。

※疾病異常調査データの集計は、末巻に掲載【資料3 (A3版)】

本報告書では、この資料を元に東京都との比較、年次推移等の加工データを掲載している。

学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令（平成26年文部科学省令第21号）

平成26年4月30日公布

児童生徒等の健康診断に係る改正規定 平成28年4月1日から施行

【改正に伴う平成28年度からの変更点】

- (1) 座高の検査について、必須項目から削除
- (2) 寄生虫卵の有無の検査について、必須項目から削除
- (3) 「四肢の状態」を必須項目として加えるとともに、四肢の状態を検査する際は、四肢の形態及び発育並びに運動器の機能の状態に注意することを規定すること→運動器検診の実施
- (4) 色覚検査について、積極的な周知をし、希望者には適切に検査ができる体制を整えること→色覚検査を希望者へ実施（小学4年生、中学1年生）

2 平成30年度 定期健康診断疾病異常調査 調査項目

No.	項目	調査内容	調査対象者
1	1在籍者数	5月1日現在の学年別在籍者数	全員
2	2受診者数	各学年毎の定期健康診断受診者数(以下の3栄養状態、4脊柱胸郭、9皮膚疾患、13その他の各項目をすべて受診した者)	全員
3	3栄養状態	(1)栄養不良 学校医により栄養不良で特に注意を要すると判定された者 ※BMI値等ではなく、学校医により判断された者の数を入力する。	全員
4		(2)肥満傾向 学校医により肥満傾向で特に注意を要すると判定された者 ※BMI値等ではなく、学校医により判断された者の数を入力する。	全員
5	4脊柱胸郭 四肢	疾病・異常者数 以下の(1)脊柱側弯症・脊柱異常、(2)胸郭異常、(3)四肢異常のいずれかが、異常と判定された者の人数 1人が(1)から(3)で複数の異常がある場合は1人と数える	全員
6		(1)脊柱側弯症・脊柱異常 脊柱側弯症、脊柱側弯など脊柱の異常と判定された者	全員
7		(2)胸郭異常 胸郭異常と判定された者	全員
8		(3)四肢異常 四肢異常と判定された者	全員
9	5視力	裸眼視力 裸眼視力測定者 (1)～(4)の合計 裸眼視力を測定した者の数。以下(1)～(4)及び「眼鏡・コンタクト装用者」は裸眼視力を測定した者のみが対象。左右それぞれの測定値の低い方。	全員
10		(1)1.0以上 低い方の視力が1.0以上と判定された者	全員
11		(2)1.0未満0.7以上 低い方の視力が0.9から0.7と判定された者	全員
12		(3)0.7未満0.3以上 低い方の視力が0.6から0.3と判定された者	全員
13		(4)0.3未満 低い方の視力が0.2以下と判定された者	全員
14		(1)～(4)のうち、眼鏡・コンタクト装用者 裸眼視力測定者のうち、眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をしている者	全員
15	眼鏡・コンタクト装用のため矯正視力のみ測定者 眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をしているため、裸眼視力を測定できず、矯正視力のみ測定した者	全員	
16	6眼疾患	受診者	全員
17	疾病・異常者数	以下の(1)感染性眼疾患、(2)アレルギー性眼疾患、(3)その他の眼疾患のいずれかと判定された者の人数	全員
18		(1)感染性眼疾患 咽頭結膜炎、流行性角結膜炎、出血性結膜炎と判定された者	全員
19		(2)アレルギー性眼疾患 ここ1年以内に、アレルギー性結膜炎、春季カタル、花粉症などのアレルギー性の眼疾患と判定された者	全員
20		(3)その他の眼疾患 感染性眼疾患、アレルギー性眼疾患以外の眼疾患・異常のある者。疑似トラコーマ、麦粒腫(ものもらい)、眼炎、斜視、睫毛内反(さかさまつげ)、先天性の色素不足による金銀眼、片目失明などの疾患・異常と判定された者。また視力低下の原因となる疾患・異常(例えば網膜色素変性、緑内障)を含むが、近視、遠視、乱視などの屈折異常は除く。	全員
21	7聴力	受診者	小学1～3年・5年 中学1年・3年
22		難聴 オージオメーターを使用して検査をした場合、両耳とも1,000ヘルツにおいて30デシベル又は4,000ヘルツにおいて25デシベル相当の音が聴取できない者	小学1～3年・5年 中学1年・3年
23	8耳鼻咽喉科疾患	受診者	全員
24	(1)耳疾患	難聴以外の耳疾患・異常の者。例えば急性又は慢性中耳炎、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳介の欠損、耳垢栓塞等の疾患・異常と判定された者	全員
25		(2)鼻・副鼻腔疾患 以下の「ア アレルギー性鼻疾患」、「イ その他の鼻・副鼻腔疾患」のいずれかと判定された者の人数 1人がア及びイの両方の疾患がある場合は1人と数える	全員
26		ア アレルギー性鼻疾患 ここ1年以内に、アレルギー性鼻炎、花粉症などの鼻のアレルギー性疾患と判定された者	全員
27		イ その他の鼻・副鼻腔疾患 鼻アレルギー以外の鼻・副鼻腔疾患・異常の者。例えば慢性副鼻腔炎(蓄膿症)、慢性的症状の鼻炎、鼻ポリープ、鼻中隔湾曲等。ただし感冒による一時的な鼻炎等の疾患・異常と判定された者は除く。	全員
28		(3)口腔咽喉頭疾患 アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常などの疾患・異常と判定された者。ただし感冒による一時的な咽頭炎などの疾患・異常と判定された者は除く。	全員
29	9皮膚疾患	(1)感染性皮膚疾患 白癬、疥癬、その他の感染性皮膚疾患と判定された者	全員
30		(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎) ここ1年以内に、アトピー性皮膚炎と判定された者	全員
31		(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外) ここ1年以内に、蕁麻疹や薬疹、接触皮膚炎などのアトピー性皮膚炎以外のアレルギー性皮膚疾患と判定された者	全員
32		(4)その他の皮膚疾患 上記、(1)感染性皮膚疾患、(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)、(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)以外の皮膚疾患と判定された者	全員

※平成30年度学校保健統計調査実施通知より

33	10結核	受診者	結核検診(問診及び学校医による診察)を受けた者の数	全員
34		(1)結核患者	結核患者と判定された者。個人的に医師の診察を受けて結核と診断された者を含む。潜在性結核を除く。	全員
35		(2)精密検査対象者	結核検診の結果、ツベルクリン反応検査、エックス線撮影などの精密検査の対象となった者	全員
36	11心臓	受診者(心電図検査)	心電図検査の受診者数	小学1年 中学1年
37		(1)心臓疾患	心膜炎、心包炎、心内膜炎、弁膜症、狭心症、心臓肥大、その他の心臓疾患・異常の者。心電図異常のみの者は含まない。	全員
38		(2)心電図異常	心電図検査の結果で二次検診の対象となった者	小学1年 中学1年
39	12検尿	受診者		全員
40		(1)尿蛋白検出	第一次検査の結果、尿蛋白が検出された者(判定が陽性(+)以上)	全員
41		(2)尿糖検出	第一次検査の結果、尿糖が検出された者(判定が陽性(+)以上)	全員
42	13その他	(1)気管支喘息	ここ1年以内に、気管支喘息と判定された、または医療機関で経過観察管理中の者	全員
43		(2)腎臓疾患	急性及び慢性腎炎、ネフローゼ症候群などの腎疾患と判定された者	全員
44		(3)言語障害	話し言葉の働きに障害のある者をいい、例えば、吃音(どもり)、発音の異常、発声の異常(聞きつき手が理解しにくい程度の発音や声の障害)、口蓋裂、脳性麻痺等に伴う言葉の異常、難聴によるこがいがいれつ発音の異常、その他情緒的原因による緘黙症、自閉症や言語中枢に障害のある失語症である。	特別支援学校 以外全員
45		(4)その他の疾病・異常	この調査のいずれの項目にも該当しない疾病・異常	特別支援学校 以外全員
46	14歯科	(1)歯科受診者	歯及び口腔の検査を受けた者の数	全員
47		(2)う歯・要観察歯	ア 処置完了者 乳歯または永久歯のうち、COは入れないがある者のうち、全部のう歯の処置が完了している者	全員
48			イ 未処置歯のある者 乳歯または永久歯のうち、COは入れないがある者のうち、処置が完了していない歯が1本以上ある者	全員
49		ウ 永久歯のう歯経験者	永久歯のう歯について、処置が完了している者、及び処置が完了していない歯が1本以上ある者	全員
50		エ 乳歯または永久歯に要観察歯のある者	乳歯又は永久歯に要観察歯(CO)が1本以上ある者	全員
51		(3)歯肉の状態	ア 歯周疾患 「歯肉の状態」が2と判定された者 ※歯石や歯垢のみの場合は含まない。	全員
52			イ 歯周疾患要観察者 「歯肉の状態」が1と判定された者 ※歯石や歯垢のみの場合は含まない。	全員
53		(4)歯列・咬合の異常	「歯列・咬合」が2と判定された者	全員
54		(5)顎関節の異常	「顎関節」が2と判定された者	全員
55		(6)歯垢の状態	歯に相当の付着がある者をいう。小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校については、各学校種の歯・口腔の健康診断票において、「歯垢の状態」が「2」(相当の付着がある)と判定された者。	全員
56		(7)その他の歯・口腔の疾病・異常	「その他の疾病及び異常」欄に記載のある者 ※むし歯や歯周疾患、歯列・咬合および顎関節以外の歯・口腔の疾患・異常(例えば、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂(こがいがいれつ)、舌小帯異常、だ石、癒合歯、過剰歯、先天性欠如の疑い、エナメル質形成不全等)が該当する。歯石や歯垢は含まない。	全員
57		(8)永久歯のう歯の内容	ア 未処置歯数(D)	小学6年 中学1年
58			イ う歯による喪失歯数(M) う歯が原因で脱落したり、抜去した永久歯の本数。 ※外傷や矯正治療のために抜歯した歯及び抜歯理由や欠損の原因が不明のものは対象外なので、抜歯理由をよく確認すること。	小学6年 中学1年
59			ウ 処置歯数(F)	小学6年 中学1年
60	15備考			

※「疾病・異常者」の取扱いについて

「疾病・異常者数」の各欄には、学校における健康診断で実施された検査項目で学校医又は学校歯科医が疾病・異常と判定した者の人数を入力します。しかし、アレルギー性眼疾患やアレルギー性鼻疾患、アレルギー性皮膚疾患、喘息などのアレルギー性疾患は必ずしも健康診断時に症状が出ているわけではありません。結核患者、心臓疾患、腎臓疾患等も診察のみでは必ずしも診断できません。

健康診断の結果、疾病・異常と判定されなかったが、医療機関において、医師から疾病・異常と診断されており、その旨を学校で把握している者も「疾病・異常者」として取り扱います。ただし、治療後など、疾病・異常の疑いがなく、単に「経過観察」と判定された場合には、疾病・異常者には計上しません。

【資料3】 定期健康診断疾病異常調査 調査データの集計（実数）

	男									女								
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1 在籍者数	2,641	2,617	2,739	2,787	2,775	2,740	2,171	2,246	2,331	2,582	2,556	2,560	2,581	2,544	2,545	2,051	2,277	2,284
2 受診者数	2,630	2,596	2,726	2,769	2,756	2,699	2,122	2,152	2,217	2,570	2,539	2,549	2,572	2,510	2,525	2,012	2,184	2,178
3 栄養状態	(1)栄養不良																	
	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
	(2)肥満傾向																	
	27	44	84	94	86	117	38	25	32	12	26	41	35	45	50	21	30	26
4 脊柱胸郭	疾病・異常者数																	
	14	12	25	25	19	35	38	43	56	10	10	22	19	19	27	46	40	63
四肢	(1)脊柱側湾症・脊柱異常																	
	4	6	11	12	9	18	14	23	37	3	4	14	9	9	13	32	29	54
	(2)胸郭異常																	
	1	1	3	4	2	6	4	6	9	1	0	3	1	2	5	2	0	1
	(3)四肢異常																	
	9	5	12	9	9	11	20	15	14	6	6	5	9	8	10	12	11	9
5 視力	裸眼視力測定者 (1)~(4)の合計																	
	2,618	2,579	2,661	2,657	2,595	2,536	1,971	1,967	1,926	2,554	2,514	2,475	2,445	2,361	2,288	1,797	1,803	1,713
視力	(1)1.0以上																	
	1,916	1,847	1,800	1,678	1,584	1,494	1,019	881	819	1,733	1,616	1,419	1,303	1,149	1,106	728	630	565
	(2)1.0未満0.7以上																	
	467	378	381	372	313	285	249	247	254	567	488	508	403	350	301	265	268	211
	(3)0.7未満0.3以上																	
	208	263	307	373	376	381	315	373	403	215	326	375	433	476	432	365	354	370
	(4)0.3未満																	
	27	91	173	234	322	376	388	466	450	39	84	173	306	386	449	439	551	567
	裸眼視力測定者のうち眼鏡・コンタクト装用者																	
	29	62	101	172	251	331	266	335	354	39	56	132	229	329	382	355	407	506
	眼鏡・コンタクト装用のため矯正視力のみ測定者																	
	19	24	67	114	170	186	176	225	316	22	33	78	128	177	247	234	419	491
6 眼疾患	受診者																	
	2,615	2,580	2,707	2,749	2,733	2,676	2,112	2,138	2,182	2,536	2,525	2,525	2,558	2,502	2,495	2,004	2,169	2,161
	疾病・異常者数																	
	250	294	293	360	295	329	174	206	153	201	252	270	275	264	243	123	141	116
	(1)感染性眼疾患																	
	1	1	2	3	1	0	3	3	1	2	1	3	2	3	1	4	1	2
	(2)アレルギー性眼疾患																	
	167	207	216	261	229	249	101	137	90	129	170	187	204	198	199	69	101	83
	(3)その他の眼疾患																	
	90	91	76	105	74	82	72	67	63	72	85	85	77	64	47	51	40	31
7 聴力	受診者																	
	2,560	2,523	2,646	2,661	2,661	2,661	2,151	2,138	2,237	2,550	2,518	2,523	2,522	2,522	2,522	2,033	2,190	2,190
	難聴																	
	28	20	19	11	11	11	15	14	14	32	30	29	16	16	12	12	21	21
8 耳鼻咽喉科疾患	受診者																	
	2,623	2,588	2,713	2,756	2,736	2,667	2,110	2,140	2,190	2,561	2,534	2,540	2,569	2,520	2,509	2,002	2,180	2,160
	(1)耳疾患																	
	265	222	190	212	225	202	188	167	165	259	211	199	172	179	138	134	122	85
	(2)鼻・副鼻腔疾患																	
	437	508	495	541	521	492	298	359	321	287	324	282	324	277	293	201	269	246
	ア アレルギー性鼻疾患																	
	311	391	402	442	432	413	248	324	287	173	222	231	274	227	256	181	256	226
	イ その他の鼻・副鼻腔疾患																	
	134	133	110	117	108	95	50	37	34	114	110	62	60	53	45	23	20	21
	(3)口腔咽喉頭疾患																	
	23	17	8	7	4	6	7	0	4	15	7	15	7	6	5	4	1	0
9 皮膚疾患	(1)感染性皮膚疾患																	
	7	0	1	2	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	3	0	0	0
	(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)																	
	110	125	100	102	102	115	51	65	63	81	78	100	94	76	83	27	27	35
	(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)																	
	10	6	7	6	3	8	5	11	5	6	10	6	7	16	21	8	6	7
	(4)その他の皮膚疾患																	
	36	26	32	16	36	32	5	5	5	27	18	12	27	9	7	5	2	3
10 結核	受診者																	
	2,637	2,599	2,727	2,773	2,762	2,712	2,145	2,192	2,248	2,577	2,544	2,546	2,574	2,528	2,532	2,028	2,227	2,213
	(1)結核患者																	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2)精密検査対象者																	
	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 心臓	受診者(心電図検査)																	
	2,633	2,633	2,633	2,633	2,633	2,633	2,143	2,143	2,143	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	2,016	2,016	2,016
	(1)心臓疾患																	
	41	27	23	25	25	12	14	6	11	28	23	26	21	17	14	16	11	11
	(2)心電図異常																	
	30	30	30	30	30	30	44	44	44	13	13	13	13	13	13	34	34	34
12 検尿	受診者																	
	2,638	2,603	2,733	2,769	2,762	2,720	2,144	2,187	2,242	2,545	2,523	2,526	2,550	2,496	2,496	2,035	2,231	2,208
	(1)尿蛋白検出																	
	8	10	4	6	5	16	31	36	44	8	13	16	15	27	33	44	53	42
	(2)尿糖検出																	
	1	1	2	1	2	2	2	2	10	2	0	1	2	0	2	3	2	5
13 その他	(1)気管支喘息																	
	173	181	154	156	180	191	89	101	107	111	109	120	111	98	113	65	69	63
	(2)腎臓疾患																	
	9	2	6	7	10	10	1	5	7	5	6	8	9	11	7	4	9	6
	(3)言語障害																	
	5	6	12	7	4	5	2	11	4	7	2	6	3	1	2	1	3	0
	(4)その他の疾病・異常																	
	39	26	37	23	21	30	56	52	61	27	28	22	21	25	18	44	55	59
14 歯科	(1)歯科受診者																	
	2,623	2,594	2,715	2,756	2,744	2,682	2,112	2,154	2,194	2,558	2,539	2,539	2,565	2,518	2,501	2,014	2,196	2,175
	(2)う歯 乳歯又は永久歯のう歯																	
	434	619	751	788	690	564	361	406	462	386	608	639	652	502	515	420	487	551
	ア 処置完了者																	
	546	607	606	654	548	380	251	228	265	516	585	568	534	437	335	243	269	289
	イ 未処置歯のある者																	
	54	119	207	347	397	493	508	579	690	65	181	244	348	419	549	573	676	790
察歯	ウ 永久歯のう歯経験者																	
	205	216	307	402	363	331	416	463	564	221	311	354	410	345	358	443	595	603
	エ 乳歯又は永久歯に要観察歯のある者																	
	6	21	29	50	57	39	49	65	77	5	22	22	34	22	39	51	51	53
	(3)歯肉の状態																	
	112	212	319	399	327	403	366	395	459	120	207	262	288	264	299	294	293	331
	(4)歯列・咬合の異常																	
	14	38	45	87	72	85	78	78	78	18	36	53	82	90	79	89	86	92
	(5)顎関節の異常																	
	1	6	4	3	4	4	3	4	2	0	5	1	3	4	6	6	5	2
	(6)歯垢の状態																	
	47	52	79	117	134	120	62	86	99	39	46	65	70	68	76	52	55	50
	(7)その他の歯・口腔の疾病・異常																	
	56	61	42	73	32	70	51	55	45	67	45	31	71	44	55	12	10	11
	(8)永久歯のう歯の内容																	
	ア 未処置歯数(D)																	
	イ う歯による喪失歯数(M)																	
	ウ 処置歯数(F)																	

平成30年度足立区の学校保健統計書

令和元年9月 発行

発行 足立区教育委員会

編集 足立区学校運営部学務課

足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5971

印刷 株式会社 イマイシ



70%再生紙
石油系溶剤を含まないインキを使用しています



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

「美しいまち」は
「安全なまち」



ビューティフル・ウィンドウズ運動展開中
足立区